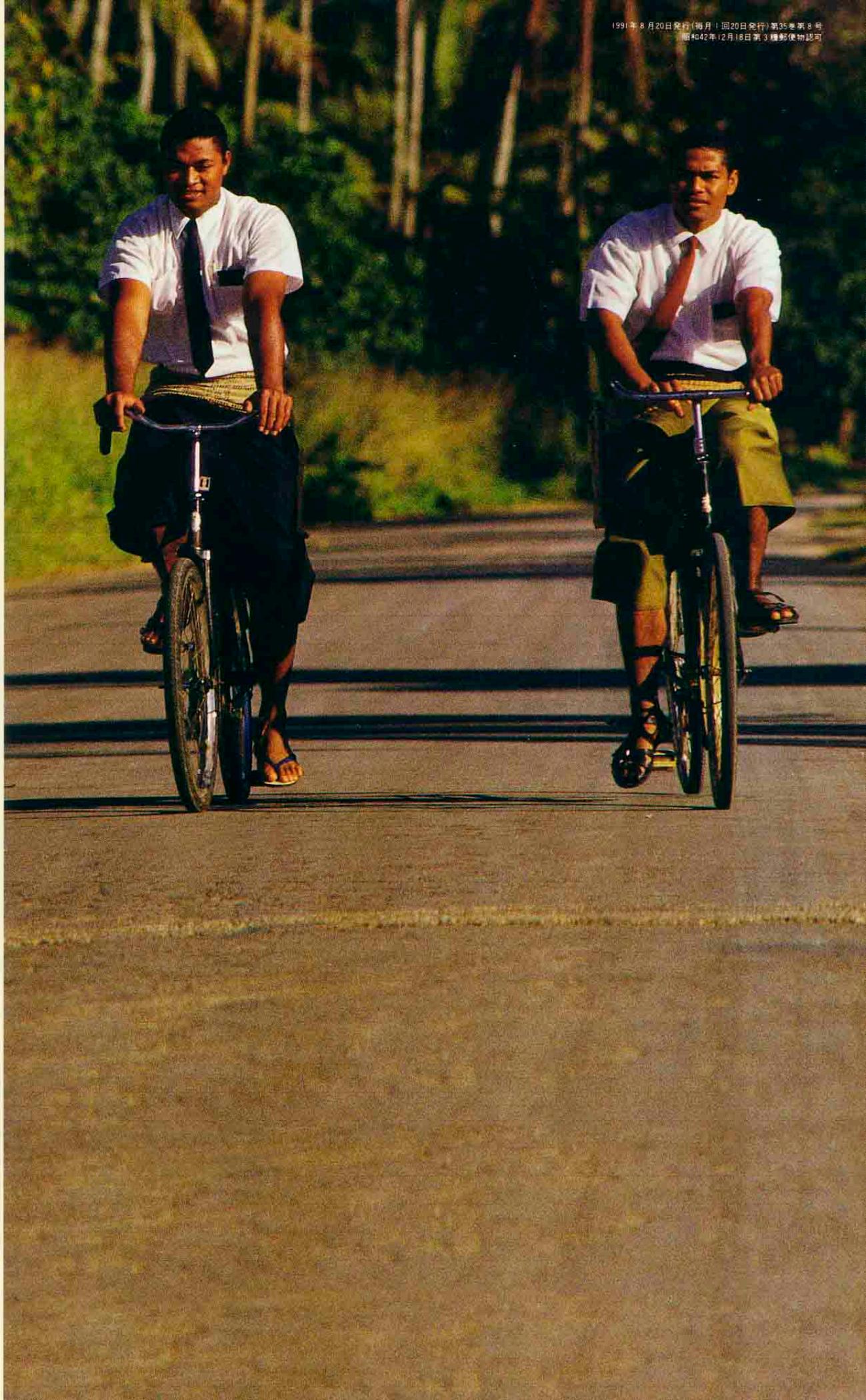


聖徒の道

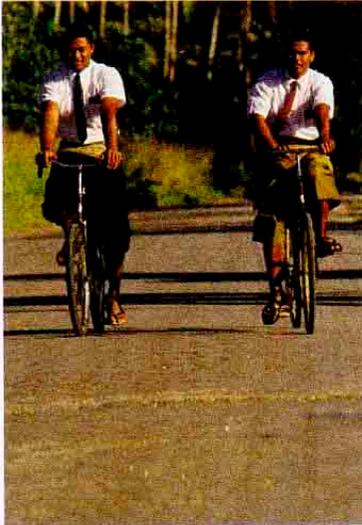
8
1991



末日聖徒
イエス・キリスト
教会

聖徒の道

1991年8月号



表紙——トンガで伝道活動に取り組む宣教師。今からちょうど100年前にこの島で伝道が開始された。トンガの伝道100周年を記念して、今月号では、この島の聖徒たちの生活振りや、先祖からの信仰の遺産が紹介されている。36ページ参照。ウィリアム・フロイド・ホルドマン撮影。

こどものページ表紙——スケートボードやすきな遊びが、またできるようになったジョシュア・デニスくん(10才)。デニスくんは使われていない炭こうの中に、ひとりのこされて5日間を過ごし、その後、すくわれました。『ジョシュア・デニス——しんこうというたから』14ページさんしょう。

一般

- 大管長会メッセージ
「くい」を強めよ 大管長エズラ・タフト・ベンソン 2
- 真の「司祭職」——神権を見いだすまで アン・レムリン・ルイス ... 8
- 古都エルサレムの通りで マービン・K・ガードナー17
- トンガの聖徒たち——信仰の遺産 エリック・B・シャムウェイ36
- いつまでも若々しく スティーブン・K・クリスチャンセン46

青少年

- リーサの友達 リチャード・M・ロムニー12
- 祝福師の祝福に添って人生を計画する リチャード・P・リンゼー18
- 「髪を切るだけで結構ですから」 ジュリー・マッキーン32

定期特別記事

- 質疑応答——独身女性の人生の目的
メアリー・エレン・エドマンズ22
- 家庭訪問メッセージ 愛——無私の奉仕25
- 家族の手引き——ストレスや落胆に対処するには26

こども

- モルモン経物語——アビナダイとノア王 2
- おもちゃばこ 7
- 分かち合いの時間 ローレル・ロールフィンク 8
- 地上の家族 キンバリー・A・リトル10
- 友だちになろう ジョシュア・デニス——しんこうというたから
シャノン・W・アスラー14

聖徒の道

1991年8月号

読者からの便り

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン
十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシントン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット
顧問：レックス・D・ピネガー、ジーン・R・クック、ジョン・H・グローバーク、ロバート・E・ウエルズ
編集長：レックス・D・ピネガー
教科課程管理部実務部長：ロナルド・L・ナイトン
教会機関誌ディレクター：トーマス・L・ピーターソン

国際機関誌

編集主幹：ブライアン・K・ケリー
編集主幹補佐：マービン・K・ガードナー
編集副主幹：デビッド・ミッチェル
編集補佐/こどものページ：ディエーン・ウオーカー
工程管理：ダイアナ・バンシュターフェレン
チーフアートディレクター：M・マサト・カワサキ
アートディレクター：スコット・D・バン・カンペン
デザイナー：シェリー・クック
制作：レジナルド・J・クリステンセン、スティーブ・テイソン、ジェーン・アン・ケンプ、デニス・カービー
配送部長：ジョイス・ハンセン
聖徒の道 1991年8月号第35巻第8号
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106 東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351
印刷所 株式会社 精興社/クロスロード
定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)
半年予約1,100円(送料共)
普通号150円、大会号350円

International Magazine

ITEM 91983 300

Printed in Tokyo, Japan.

Copyright © 1991 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

The *Seito No Michi* (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to *Seito No Michi* at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

とても幸せです

娘がアイダホ州に伝道に行ってから、とても寂しく孤独な気持ちでした。私は慰めを得るために天父に祈りました。そして「リアホナ」(スペイン語版)を読んで必要な助けと力を得ました。今ではどこへ行くにもこの美しい本を持って行きます。私はとても幸せです。

カリフォルニア州ロサンゼルス
ラシエネガワード部
エドナ・リキダノ

靈感を得る

「リアホナ」(スペイン語版)は本当に靈感を与えてくれる書物です。真実の福音のメッセージを私たちの家庭にもたらしてくれる大切な本として尊重しています。「リアホナ」に掲載されている話や記事を通して日々の生活だけではなく、永遠への備えにも役立つ原則を学ぶことができます。

「リアホナ」を毎月発行して下さる編集部の皆さんに感謝しています。ベネズエラ、カラカス伝道部
クラカオ支部
カルメン・マリア・トレンチノイ

貴重な写真やイラスト

私は個人や家族、教会で使うのに役立つ貴重な記事が掲載されている「リアホナ」(スペイン語版)を毎月読めることを大変うれしく思います。

私はワード部で霊的生活の教師をしています。たびたび「リアホナ」に出てくる実例や話、聖句を使います。特に、レッスンの効果を高め、非常に役立つ美しいさし絵や写真や図版を楽しみにしています。

私と同じように利用者は大勢いると思いますので、年間索引に、テーマごとのさし絵の索引も補足していただければと思います。1ページ全体、あるいは2ページにわたる大きなさし絵は役に立ちます。私は「リアホナ」のどこかで見た絵を探すためにページを1枚1枚めくって何時間も費やすことがたびたびあります。索引があればこの問題が解決されるのです。

「リアホナ」のために働いてくださるすべての方々に心から感謝しています。

アルゼンチン、メンドサ
ゴドイクルス・セントラルワード部
セルサ・サンチェス・デ・レクエルメ

編集室より——ご提案に感謝しています。お手紙をいただいたとき、年間索引はすでに完成していました。けれども、ご提案は今後にかけて考慮していきたいと思います。

ふさわしさ

私たち家族は、福音に対する証が強まり、モルモン経が真実であることを知っています。全世界の兄弟姉妹すべてがキリストと生ける神のまことの福音を知るために、心を込めてモルモン経を読むように望んでいます。主が私たちを愛してくださっていること、私たちが道をそれるときに主が悲しまれ、絶えず成長できるように主が機会を与えてくださっていることを知っています。私たちがこれらの祝福を受けるふさわしさを守れるように祈っています。メキシコ、レフォルマチアパス
ピラヘルモサステキー部
ヒワン・イグナシオ・プリド・エスコバル



「くい」を強めよ

大管長
エズラ・タフト・ベンソン

「くい」という語は象徴的な言葉です。大きなテントを思い浮かべてみてください。テントを支える綱は「くい」でしっかりと地上に固定されています。

予言者たちは末日のシオンを地上を覆うひとつの大きなテント、つまり天幕にたとえました。この天幕は多くの「くい」に結ばれた綱で支えられています。もちろん、これらの「くい」、つまりステーキ部とは全世界に広がる様々な地理上の組織単位を指しています。現在、私たちイスラエルの民は各地のシオンのステーキ部に集合しています。

皆さんにステーキ部の目的をはっきり理解していただくために、いくつかの聖句を引用してみたいと思います。

「また、シオンまたは組織せられたるシオンのステーキ部内にて子供を有する両親ならば、その子供八才の時、悔改め、生ける神の子キリストの信仰、バプテスマとあんしゆ按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば、罪その両親の頭こうべとどまに留るべし。およそシオン、またはその組織せられたるステーキ部内に住める者の律法おきてはかくの如し。」(教義と聖約68：25—26)

この聖句の中にステーキ部の主要な目的のひとつを見いだすことができます。「シオンの子供」を持つ両親がイエス・キリストの福音を彼らに教え、救いの儀式を行なえるようにステーキ部は組織されました。その目的は聖徒たちを全き者とすることにあり、しかもそれは、家庭で福音が効果的に教えられてこそ実現するものなのです。

ステーキ部の役割とは、会員たちの一致を図って彼らを全き者とし、義の「はたじるし」となり、悪の「守り」となり、将来吹き荒れる嵐の「避所」となることである。

ステーキ部が組織されたときにのみ、会員に恩恵をもたらすための教会の完全なプログラムが承認されます。つまり若い男性と成人男性のための神権定員会、教会の補助組織のプログラムが完全に行なわれるようになります。これらは、家族と個人が福音に対する証を得てそれを強め、地上における試しの生涯の間、霊的な面で成長する準備ができるように用意されています。

別の啓示の中では、主はこう言われました。「すなわちシオンはその美と聖とを増し、その境域は拡がりそのステーキ部は堅うせられざるべからず。われ誠に汝らに告ぐ、シオンは起ちてその美しき衣を着けざるべからずと。」(教義と聖約82：14)

この中で主はステーキ部のもうひとつの大きな目的について述べておられます。それは、ひとつの美しい「しるし」として世のすべての人の目に映るようになる、ということです。「その美しき衣を着けざるべからず」とは、自らを「聖徒」と呼ぶすべての会員が努力して到達すべき内面的な清さに言及したものであることは言うまでもありません。シオンとは「心の清き者」(教義と聖約97：21)という意味です。

主がご自分の選ばれた民に期待しておられる清さの標準を会員たちが生活の中に取り入れて実践するとき、シオンのステーキ部は力を増し、その領域を広げていくのです。

どの時代の予言者も「シオンよ、……力を着よ」(イザヤ52：1)と語ってきました。予言者ジョセフ・スミスはこの言葉を次のように解説しています。「〔これは〕神が末の世に於て呼びたもうべき者たちを指せるなり。この者たちは、再びシオンを興しイスラエルの贖いをなす神権の権能を有つ。また、力を着るとは神権の權威を纏うことにして、こは系統によりて当然シオンの受くべきものなり。」(教義と聖約113：8。下線付加)

主が与えてくださったほかの啓示の中にも、ステーキ

部の目的について次のような説明があります。「誠にわれ汝らすべてに告ぐ、汝ら起ちて己が光を輝かせ。これ汝らの光よるずの国民のはたじるしとならんため、シオンの土地とまたシオンのステーキ部とに集合すること、一つは防禦のためとなり、また暴風雨の避所となり、憤りのありのままに全地に注がるる時に一つの避所ともならんためなり。」(教義と聖約115：5—6)

この啓示の中で私たちは、すべての国民の「はたじるし」となるために自らの光を輝かすように命じられています。この「はたじるし(standard)」とは「標準」を意味します。標準とは正確さや完全さを見極めるための尺度であると言えます。聖徒たちは世の人々が仰ぐ清さの標準となるように期待されています。それがシオンの美しさなのです。

次いで主は、シオンのステーキ部は「一つは防禦のためとなり、また暴風雨の避所となり、憤りのありのままに全地に注がるる時に一つの避所」となることを示されました。ステーキ部は聖徒たちにとって目に見える敵と目に見えない敵からの防御となります。この防御、つまり守りとは、神権系統を通じて与えられる指示を指し、それは証を強め、家族の結束を促し、個人が一層正しい生活を送れるように励ましを与えるものなのです。

主は教義と聖約に収められた啓示の「はしがき」の中で、次のように警告しておられます。「その日〔は〕速に来る……。而して地より平和の取り去られ、悪魔自らの領土を支配する時はなおいまだしといえども今や近きにあり。」(教義と聖約1：35)

この啓示が与えられてから160年を経た今日、この予言の成就を私たちは目の当たりに見えています。サタンはますます燃え盛る怒りに任せて「自らの領土」であるこの地球上で力を振るっています。かつてこれほどサタンが大きな力を持っていた時代はほかにありませんでした。聖霊を自らの導き手とし、神権指導者の勧告に従う人々



福音のメッセージを人々に伝える機会を見付けなければなりません。教会の発展は会員伝道活動にかかっています。

だけが、悪の力が引き起こしたこの荒廃から救われるでしょう。

主はこの「はしがき」となる啓示の中で、さらに次のようにも言われました。「主もまたその聖徒らを支配し、その真中にありてこれを統治せん。」(教義と聖約1:36) 主は、ご自分の油注がれた僕やステーク部、ワード部の指導者を通じてそのようにされるのです。

モルモン経の予言者ニーファイは、世界各地のステーク部に聖徒たちが集う日を予見しました。聖徒たちの存在を脅かす滅亡の嵐が吹き荒れるとき主が彼らを守りたもう時代を、ニーファイは見たのです。彼はこう予言しています。「私ニーファイは、神の子羊の能力が子羊の教会の聖徒らと、主の誓約を受けて世界の各所にちりぢりとなった民の上とに下り、これらの人々が義と大きな栄光にかがやく神の能力とを以て武装したのが見えた。」(I ニーファイ14:14)

末日には様々な危険、災い、そして迫害のあることが啓示されています。しかし、聖徒たちは正義によって救われるでしょう。モルモン経の中にある主の約束は確実です。「神はその能力で必ず義人たちを守りたもう。」(I ニーファイ22:17)

以上の啓示から、ステーク部には少なくとも4つの目的のあることが理解できます。

1. それぞれのステーク部は、3人の大祭司が高等評議員と呼ばれる12人の男性の助けを受けて管理し、特定の地域に住む聖徒たちにとって、教会組織のひな形となります。その目的は、ステーク部の境界内に住む会員たちに教会のプログラムを提供し、様々な儀式を執り行ない、福音を教えることによって、会員たちの一致を図り、彼らを全き者とすることにあります。
2. ステーク部の会員たちは、正義の模範、「はたじるし」、標準とならなければなりません。
3. ステーク部は「守り」とならなければなりません。

ステーク部の会員たちが地元の神権役員の下にひとつとなり、各自が献身的に自らの義務を果たし、誓約を守ることによって、それは実現されます。またこれらの誓約を守るならば、過ちや邪悪、不幸から守られるでしょう。

教会はステーク部に神殿を建てます。神殿の祝福と儀式を受けることによって昇栄に備えることができるからです。もちろん、ステーク部ごとにひとつの神殿を建てることはできません。しかし私たちは現在、きわめて顕著な、というより、奇跡的な勢いで、世界の各地に神殿を建設しています。こうしたプログラムを通じて教会員は主の完全な祝福を受けられるようになります。

4. ステーク部は全地に嵐が吹き荒れるときの「避所」です。

これら4つの目的を念頭に置いて、ステーク部内に住む教会員の責任について考えてみましょう。

1. 私たちは人々の前にイエス・キリストの福音の光となる必要があります。救い主は次のように命じられました。「汝らはいかなる人物にてあるべきか。まことに汝らはわれと同じ人物ならざるべからず。」(III ニーファイ27:27)

2. 福音のメッセージを人々に伝える機会を見付けなければなりません。教会の発展は会員伝道活動にかかっています。しかも、会員伝道活動は教会員一人一人の成長を促す大きな鍵のひとつなのです。

3. 私たちはできることをすべて行なって、自分の息子や孫息子が伝道に出る準備ができるようにすべきです。どの男の子にも伝道のための預金口座を持たせてください。

4. 家庭を愛と和合一致のある「避所」にしてください。父親の指示の下に、どの家族も祈りを捧げ、福音を学び、家庭の夕べを開くようにしてください。

5. 神殿の祝福と儀式を受けるように努めなければなりません。これは、正直、誠実、純潔などの主の戒めを

それぞれのステーキ部は、3人の大祭司が
高等評議員と呼ばれる12人の男性の助けを受けて管理し、
特定の地域に住む聖徒たちにとって、
教会組織のひな形となります。

守り、主が召された神権指導者を支持している、ということの意味です。男性会員はメルキゼデク神権に聖任されるにふさわしい状態にある、という意味でもあります。

6. 私たちには、亡くなった親族のために神殿の儀式を行なう義務があります。それは同時に、神殿に名前を提出するために必要な探究を行なうということでもあります。先祖と永遠にわたって結び固められなければ、昇栄を得ることはできません。

7. 家族として自立できるように努めなければなりません。1936年以来、教会員は、食糧、衣料、可能であれば燃料も1年分を蓄えるように勧告されてきました。こうすることによって、仕事を失ったとき、収入が途絶えたとき、災いに遭ったときでさえ、啓示に述べられているとおりにそれらを乗り切ることができるのです。

8. 神権者は、組織されたホームティーチングを通して、定員会会員とその家族を見守り、心を配る必要があります。私たちは、教会活動に十分に参加していない担当先の教会員一人一人に対して、関心を持たなければなりません。

9. 教会のプログラムや活動に参加しなければなりません。安息日を聖日として守り、集会に出席し、与えられた召しを受け入れ、その召しを全力を尽くして遂行してください。みずから進んで奉仕するなら、大きな喜びが得られることを約束します。

10. 成人会員は全員、什分の一を完全に納め、断食献金を惜しみなく捧げるようにしてください。

私は皆さんに証します。この業は主のみ業であり、この世で最も価値あるみ業です。神の祝福があつて、私たちが忠誠を貫き、この偉大なみ業を雄々しく証できるように願っています。

最後にモルモン経のあの偉大な予言者モロナイの勧告を引用しておきたいと思います。

「シオンの娘よ、汝は再び散り乱れないよう、また永遠の御父がイスラエルの家に立てたもうた誓約が果されるよう、その美しい衣を着、そのくいを強くし、またとこしえにその界^{きかい}を広くせよ。」(モロナイ10:31)□

(教会のステーキ部のために、エズラ・タフト・ベンソン大管長が語った説教より)

ホームティーチャーへの提案

1. 主は次の4つのおもな目的のためにステーキ部を組織された。
 - ①ステーキ部内に住む会員たちの一致を図り、彼らを全き者とする。
 - ②正義の模範となる。
 - ③会員のための「守り」となる。
 - ④地上に嵐が吹き荒れるときの「避所」となる。
2. ステーキ部内に住む会員たちには次のような責任がある。
 - ①福音の光となり、人々に福音を伝え、息子や孫息子たちに将来伝道に出る備えをさせる。
 - ②家庭を愛と和合一致のある「避所」とする。
 - ③自分自身と亡くなった親族のために神殿の儀式を受け、神殿の祝福を求める。
 - ④自立する。
 - ⑤教会のプログラムや活動に参加する。
 - ⑥什分の一を完全に納め、断食献金を惜しみなく捧げる。



真の「司祭職」

アン・レムリン・ルイス

神権の回復について読んだとき、ファン・シエは、もっと知る必要がある、と思いました。「以前いた教会の司祭職を解かれて以来初めて、もう一度神権を受けられるかもしれない、と思いました。」シエ兄弟はそう語ります。

カトリックの司祭を18年間も務めた後、シエ兄弟は「霊的なむなしさ」を覚えてその職を去りました。ところが今や、回復された福音を学び、神の本当の神権をまさに見いだそうとしていたのです。

ファン・シエ兄弟は、1922年8月23日、中国の大冶という人里離れた農村に生まれました。正規の教育を受け始めたのはやっと10歳になってからのことでした。私立の学校で4年間学んだ後、カトリックの学校に籍を置き、イエス・キリストについて学び始めました。こうしてカトリック教徒として洗礼を受けました。「私は、善良なカトリックの宣教師の模範をたくさん見て、おそらく中国には、イエス・キリストについて教えるカトリックの宣教師がもっと必要ではないかと考えたのです。そして、司祭になろうと決心しました」とシエ兄弟は語ります。

シエ兄弟のその決心を実現する道のりは長く困難なものでした。まず、武漢にあるカトリックの神学校に4年間通い、次いで首都北京にあるカトリックの大学で学びました。1年後には共産軍が北京を掌握し、シエ兄弟は上海に避難して、その地でオーロラ・ジェズイット大学に通いました。共産軍が上海に侵入すると、今度は香港のカトリック神学校へ移籍しました。次に、政治的な理由によって神学校はマカオに移され、マカオでシエ兄弟は、カトリック教会の司祭として叙任されたのです。

叙任後、イタリアのローマに赴任することになりました。

た。そこでは、イタリア語、ラテン語、法学を4年間学びました。次に、フランスのパリに移り、この地で、聖書の原文と様々な翻訳をより正確に理解するために、フランス語、ギリシャ語、ヘブライ語、英語、スペイン語、ドイツ語を学びました。救世主について可能な限り学びたいと望みました。

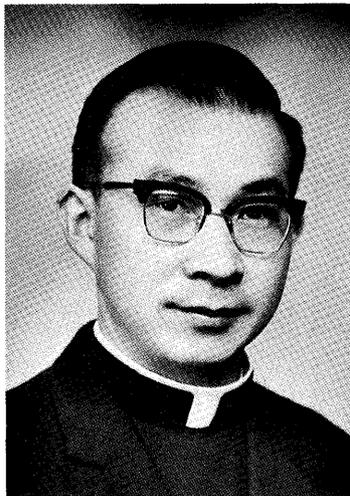
1967年、ついにイエス・キリストについて人々に教えるというシエ兄弟の年来の望みが実現しました。台湾の首都台北にある輔仁カトリック大学の学長、ユー・ピン枢機卿から、哲学およびフランス語の教授として招かれました。この仕事の中で、シエ兄弟は、次第に強くなっていたイエス・キリストに対する証を宣べ伝え始めました。

「18年間、私は教壇に立ち、また司祭としての務めを果たしました」とシエ兄弟は語ります。「多忙でしたが、幸福ではありませんでした。ヨーロッパで勉強し、教師、学生、大学教授、従軍牧師や神学校の校長と、実に変化に富んだ生活を送りましたが、心は満たされなかったのです。」

カトリック教会には、シエ兄弟にとって窮屈な規則や慣習もありました。たとえばある種の本は読むことを禁じられていました。でもシエ兄弟は、できるだけ多くの本を読んで視野を広げたかったのです。叙任された司祭として悩んだもうひとつの問題は、次の主のみ言葉でした。「人がひとりであるのは良くない。」(創世2:18)

「私は病魔に襲われ、世話をしてくれる人がそばにだれもいなかったとき、特にこの聖句が現実味を帯びて感じられました。とても寂しく思いました。共に人生を歩む伴侶の必要性を痛感したのです。永遠に独身でいることは正しくないと、そのとき思いました。」

こうした感情が時と共に大きくなっていきました。つ



——神権を見いだすまで

いに、1973年、シエ兄弟は司祭の誓願を解きたいと願い出ました。輔仁大学を退いて、すぐに台北にある国立政治大学で職を得ました。そこで1年後に、シエ兄弟は大学で助手を務めていたひとりの女性と巡り会い、求婚し、結婚しました。シエ兄弟が50歳ころのことでした。

「司祭職を去るのは私にとってつらいことでした。長い間、司祭を務めてきており、それまで目指してきたすべてのことをこのとき捨てなければならなくなったのです。福音の知識を人と分かち合うことや、司祭として行なってきたいろいろな事柄に未練が残りました。聖職者に結婚を許すほかの教会の牧師になろうとも思いましたが、カトリック教会への信仰があったので、改宗はできなかったのです」とシエ兄弟は言います。

結婚して3年目のことです。ふたりの若い男性が入り口のドアをノックしました。シエ兄弟はひとりで家にいました。「ふたりは私に話してもよいかと言うので、何について話されても、私には時間も興味もありませんと答えたのです。

しかし、このふたりのことを考えると興味がそそられました。彼らは何者なのか、台湾で何をしているのかを知りたいと思いました。そこでアパートの窓からふたりが家々のドアをノックしている姿を見ていました。長い時間、ふたりがアパートの1棟から出て来るのを待って、『こちらへ戻って来てください』と呼び掛けたのです。

最初、『あなた方は宣教師ですか』と尋ねました。ふたりがそうです、と答えたので、彼らの信じている宗教について質問しました。ところが大半の質問に対して答えが得られず、このときの話し合いには満足できませんでした。

その晩、妻と昼間の宣教師のことを話し合っていると、彼女は『にせ預言者を警戒せよ』という主の訓戒を私に指摘しました。』（マタイ7：15参照）

宣教師が再び訪問したとき、シエ兄弟は彼らを家の中には通さないつもりだったのですが、礼を欠きたくはないと思いました。その晩はずっと、シエ兄弟が宣教師に真の宗教のあるべき姿について論じました。カトリックの司祭であったことは明かしましたが、宣教師はシエ兄弟のキリスト教に対する深い知識に、かえって希望を感じました。

宣教師のひとり、ドナルド・B・セナティエンボ長老は、そのときの経験を次のように記しています。「まるでこちらが生徒で、相手が教師のようだ。シエ兄弟は非常に教養のある、宗教心に富んだ人だ。」宣教師がまた訪問してよいか尋ねると、はい、という答えでした。以来毎週、宣教師が決まって訪問するようになりました。

「彼らを追い払おうとは思いませんでした」とシエ兄弟は述懐しています。「もしあのふたりの教会が本物ならば、予言者がいて絶えざる啓示があるはずだ、と思いました。あなたがたの教会にはなぜ十字架やキリストの磔刑像がないのですか、とふたりに尋ねると、『キリストは復活して、現在も生きていらっしゃるからです。友人や親が亡くなったら、彼らの遺体を写して、それを人々に見せますか』と宣教師は答えたのです。彼らの答えに秘められた知恵に私は感動しました。」

シエ兄弟はモルモン経と教義と聖約を読み始めました。主が末日の人々に語り掛けられた記録が収められている教義と聖約が、特に好きになりました。シエ兄弟がほかの本を読みたいと言うので、宣教師はリグランド・リチャーズ長老が著わした「奇しきみわざ」を渡しました。



ファン・シエ兄弟と妻のショー・イー・ロー姉妹、16歳になる息子のヤー・ウェイ兄弟。元カトリックの司祭だったシエ兄弟は、1986年から1990年まで、台北神殿の副神殿長を務めた。ショー・イー・ロー姉妹はワード部の補助組織で責任を果たし、神殿奉仕者、インスティテュートの教師を務めている。息子のヤー・ウェイ兄弟は、執事のときに、2,000人以上の死者のための身代わりのバプテスマを受けた。

「シエ兄弟が神権を受け、神権の職の範囲内で責任を果たすことは可能です、と私たちはシエ夫妻に伝えた。『司祭職』、つまり私たちの教会で言う神のまことの神権を保持することの意味を、シエ兄弟はこの段階でだれよりもよく理解している。」セナティエンポ長老はそう記しています。

シエ兄弟は自分が読んだ本の内容を夫人に説明すると、夫人も興味を示しました。ふたりは一緒に勉強し、理解力を求めて祈るようになりました。ついに、シエ夫人がふたりの宣教師にこう伝えました。「ふたりで祈った結果、一緒にバプテスマを受けるのが一番良いということになりました。」1977年12月、シエ夫妻はバプテスマを受けました。

ふたりの生涯におけるこの特別な出来事があって以来、ふたりは強い証を育て、喜んでその証を人々に伝えています。

「私たち夫婦がいつも言っていることですが、主が望んでおられることなら何でもする覚悟です。地上に神の王国を打ち建て、福音のメッセージを伝えるために、私たちは主が与えてくださったあらゆる機会と才能を使おうといつも努めています。」

シエ兄弟にはそうするための、またとない機会が開かれています。キリスト教徒である大学教授の国際会議で、7回も講演しました。「教授たちはこの教会に興味を持っています。近代のキリスト教界では新しく、際立った存在だからです。主はこうした学者たちに証をする機会をたくさん私に与えてくださいます。」

現在、シエ兄弟は木柵ワード部に所属する、台北西ステーク部の高等評議員であり、モルモン経の中国語への再翻訳の仕事にも参加しています。

「福音は神の愛です。」シエ兄弟は語ります。「すべての男女が福音のメッセージに耳を傾ける必要があります。何をするにも神に栄光を帰し、人に救いをもたらすために行なうべきです。友情を通じて人々と福音を分かち合うことができます。救いと昇栄こそ、すべての人の最終目標なのです。」□





PHOTOGRAPHY BY M. KAWASAKI



リーサの 友達

リチャード・M・ロムニー

人と人との愛が
そうであるように、
人と動物との愛も
信じ合うことから
生まれるのだ、と
リーサ・ロトは
イルカから学びました。

フィンランドのタンペレに住むリーサ・ロトには、皆に会わせたい友達があります。けれども、リーサとその友達に会うにはあらかじめ約束を取っておかなくてはなりません。そして、靴についたバクテリアを彼らの生活の場に持ち込んだりしないように、紙製の靴を履かなければなりません。そうすればリーサが友達と話をして心を落ち着かせ、あなたを信用しても大丈夫だと説明してくれます。

リーサがプールサイドに立って両手を頭の上に上げ、笛を吹きます。すると、水の中を友達が競ってやって来ます。まるですべすべした灰色の魚雷のように。次にその友達はあなたに水しぶきをかけて、ミサイルのように空に向かって飛び出すでしょう。

そうです。リーサの友達とは、イルカなのです。

「イルカは本当にすばらしい生き物です。」リーサは言います。「毎日そばにいて、一緒に活動し、訓練していると、だんだんとそれぞれのイルカの性格までわかるようになります。」リーサはイルカをそれぞれの名前前で呼び、イルカもまたそれに答えます。

「これはナーシー。写真を取られるのが好きです。」すると、そのイルカは喜んでポーズをとってくれます。

リーサは20歳のとき、このイルカの水族館、デルフィ

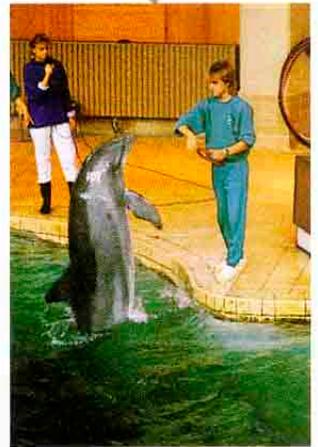
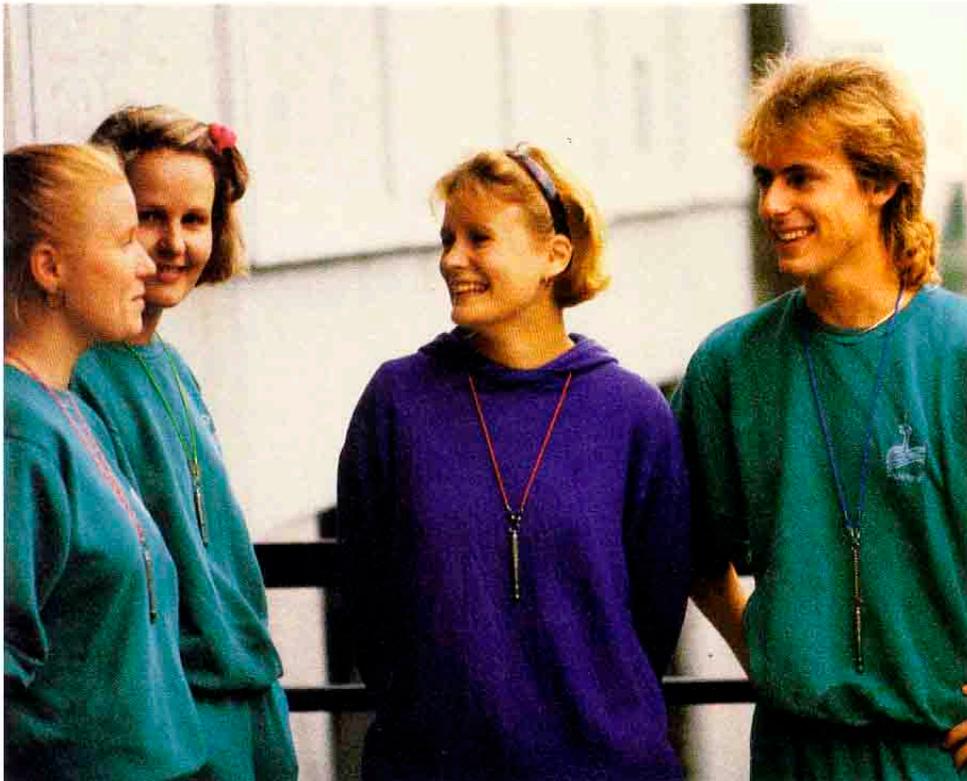
ナーリオでの仕事のことを耳にし、胸を躍らせました。彼女にぴったりの条件がそろっていたのです。フィンランドの高校にあたる学校で、リーサは生物と数学、科学、物理、そして化学を学びました。

「これらすべてがこの仕事に関連しているのです。その上、私はいつも動物に関心を持ってきました。」リーサはこう説明します。また、この仕事を通してスウェーデンの大学で勉強するための学費も稼げるのです。熱意とこれまでの経歴が生きて、リーサはこの仕事に就くことができました。

海に住む動物との友情は、彼らの世話をするときに行うことをリーサは学びました。来る日も来る日もイルカのえさを用意し、ビタミンを与え、一緒になってゲームをし、水槽から水を少し取り出してバクテリアの検査もします。イルカのそばにいないときは、個々のイルカについての日誌をコンピュータに打ち込むか、水質検査について話し合っているか、あるいは専門誌を読んでいます。

リーサはまた調教師や検査員の人たちとも打ち合わせをし、イルカショーではデルフィナーリオのショー会場に集まった観客を前に、司会の役も果たさなければなりません。ときどき、タンペレでステーキ部長を務めてい





忙しい毎日ですが、イルカとの友情は日ごとに深まっています。ショーの観客は、調教師とイルカの心のふれ合いが伝わってくると思います。

る父親のペッカ・ロト兄弟に車で会いに行きます。途中、街に立ち寄ってタンペレでは有名な屋内市場をぶらぶらするのですが、そこには世界中から集められた野菜や果物がどの通路にも所狭しと並んでいます。

「今でも魚は食べています。」イルカは魚ではなく哺乳動物であることを心に留めつつも、リーサは言います。「でもニシンはあまり食べなくなりました。私たちがイルカにあげているのがニシンですから。」

リーサの好物を聞いてみると「マッシュルーム」という答えが返ってきました。

リーサは自然に動物を愛するようになりました。子供のころは牧場に住んでいて、馬をかわいがっていました。「小さいとき、主も私と同じくらいにこの馬を愛しておられるかしら、と思ったのを覚えています。そうに違いないと考えた私は、自分も主が作られたすべての物を受さなければならないと思いました。当然のことですが、主が私のために、そして皆のために作られた物によって、この世界はできているからです。」

少し話をすれば、リーサがイルカのことを本当によく知っているのがわかります。イルカたちはアメリカのフロリダやメキシコ湾からフィンランドに運ばれます。イルカたちは体が乾くのを防ぐために乳剤を塗って新居へ

と運ばれるのです。飼育されているイルカは死んだ魚を食べるよう訓練されますが、本来は生きた魚しか食べません。また、赤ちゃんのイルカにはミルクを吸入させてあげればよいのです。仲間が病気になると、ほかのイルカは心配し、病気のイルカをかばいます。イルカは大変頭の良い動物だと言われ、一連の口笛や、まるで鳥のようにチッチッと速い音を出すことによって仲間同士で意思を伝え合います。また、イルカは体の中に探知器を持っていて、迷うことなく自由自在に海を泳ぎ回ることができます。

イルカは生来ジャンプの名手であり、調教師はその特性を生かして、しっぽで立って後ろへ「歩く」などの新しい技を教えています。イルカは喜んで遊びに興じます。調教師はその傾向をうまく利用してポールや輪、かごを使うことを教えるのです。

リーサはイルカについてよく知っているだけでなく、イルカが本当に好きです。リーサが水槽に水を入れると、そのときにできる泡を顔や頭に当てようとイルカが集まります。リーサはまた、イルカたちにひれで水面をたたかせたり、プールからはい出して人に頭をなでてもらえるようにもできます。リーサはいつでもこの上ない敬意をもってイルカに接しています。





リーサは毎日欠かさずそれぞれのイルカの日誌をつけます。「私はただ友達の記録をつけているだけです」と、リーサは言います。



「イルカは私の友達です。天父が、イルカにやさしくするように望んでおられるのがわかるんです」とリーサは言います。

リーサは高価なる真珠の中で、主が海の生き物を作られたという次のような聖句を読んだことがあります。「われ神言いけるは、水は生きて動くものを豊に……生ずべし。」(モーセ2:20)主が「すべてのものを、これらがいまだ地の面に自然に在るに先だち霊として創[られた]」(モーセ3:5)ことを、リーサは知っています。リーサはまた、教義と聖約から次のような聖句を思い出しています。「そは、わが生くる者の為に造りて備えたるこの世の幸福を掌どる者として、すべての人をしてその責に任せしむるは主なるわれ必要とするところなればなり。」(教義と聖約104:13)

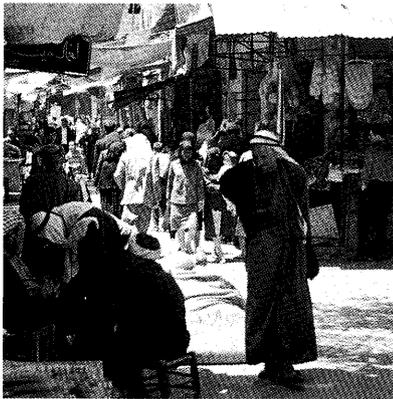
「イルカと共に過ごしていると、イルカがこの世に偶然作り出されたのではないと感じずにいられます」と、リーサは言います。「そして聖典を読むとき、主が私たちにほかのあらゆる生き物と共にこの世界を共有するように望まれていることをいつも感じます。そうすれば私たちは共に生き、共に成長していけると思います。」

このような信念が、共に働く同僚たちにリーサへの敬

意を抱かせるのでしょう。彼らも動物が大好きだからです。

当然のことながらリーサの人生すべてをイルカが占めているわけではありません。リーサは大学では経済を勉強するつもりです。そして、将来はその分野で働きたいと考えています。リーサには、愛し認めてくれる家族がいます。また、果たすべき教会の責任もあります。伝道に出ることや、いつの日か神殿で結婚し、自分の家庭を持つことも話題に上ります。今でもリーサはタンベレの郊外にある家族の牧場を訪ねます。そこにいる動物ともやはり友達なのです。

リーサにとってデルフィナーリオでの仕事はあくまでも一時的なものにすぎません。「この仕事は大好きです。でも、ほかにしたい計画もあるんです」とは言いながらもリーサはこの仕事を通して検査のこと、そして愛情を持って訓練することを学んでいると言います。「イルカたちは人間が自分をどう思っているかを本当によくわかっています。」リーサはまた、天父が動物と人間との間に芽生えるようにされた友情についても学んでいると言っています。□



古都エルサレムの通りで

マービン・K・ガードナー

古 都エルサレム。
通りは狭く、路地よりもわずかに幅があるだけですが、世界中からやって来た人の群れであふれています。半ズボンをはき、サングラスをかけた旅行者、様々な宗派の法服を身にまとった人々、機関銃を抱えた若い兵士、丸い帽子をかぶったユダヤ人の男性や少年、ゆるやかなローブと羊飼いのかぶりものを身に着けたアラブ人、このような人々とは対照的にビジネススーツを着込んだ人もいます。小さな子供たちが人込みの中を矢のように走り抜けていきます。

スーク（「市場」の意）を進んでいくと、安価な品物を売る声が至る所から聞こえてきます。その品物の種類の多さには圧倒されます。店主たちは、自分の店の前の通りにまで商品を並べて宣伝しています。かごの中はくるみや果物、野菜でいっぱいです。ししゅう入りの長いドレスが頭上にぶら下がっています。棚の上には、オリーブの木を彫って作った宗教的な像が数多く並べられています。真ちゅう製の料理用品、銅製や銀製の皿、光沢のあるアルメニア製の陶器、ペルシア製の水差しが何列も並べられています。また、金や銀の装飾品、羊の皮、革のコート、異国情緒豊かな光沢の美しいじゅうたんなどがどこまでも途切れることなく並んでいます。

ファラフェル（香辛料とすりつぶした野菜を混ぜて揚げたもの）を作っている人がいます。シシカバブ（中近東の羊肉料理）を焼いている人もいます。焼きたてのパンの香りが不思議な香辛

料の香りと混じり合います。ドアの前に立った商人が私たちに中に入るようにと招いています。様々な国の音楽がラジオから流れてきます。

私は、妻のメアリーと共に、キリスト教徒、ユダヤ教徒、イスラム教徒にとって大切な宗教関係の商品を売っている店に立ち寄りました。あれこれと手に取って眺めていると、小柄でほっそりしたアラブ人の店主が、その意味と使い方をいくつか説明してくれました。それから彼はコーランについても話してくれました。

私たちは何をかうかを決め、当然、値引交渉を始めました。しかるべき値段に落ち着いたことを望みつつ、その店の主人に真新しい紙幣を渡しました。

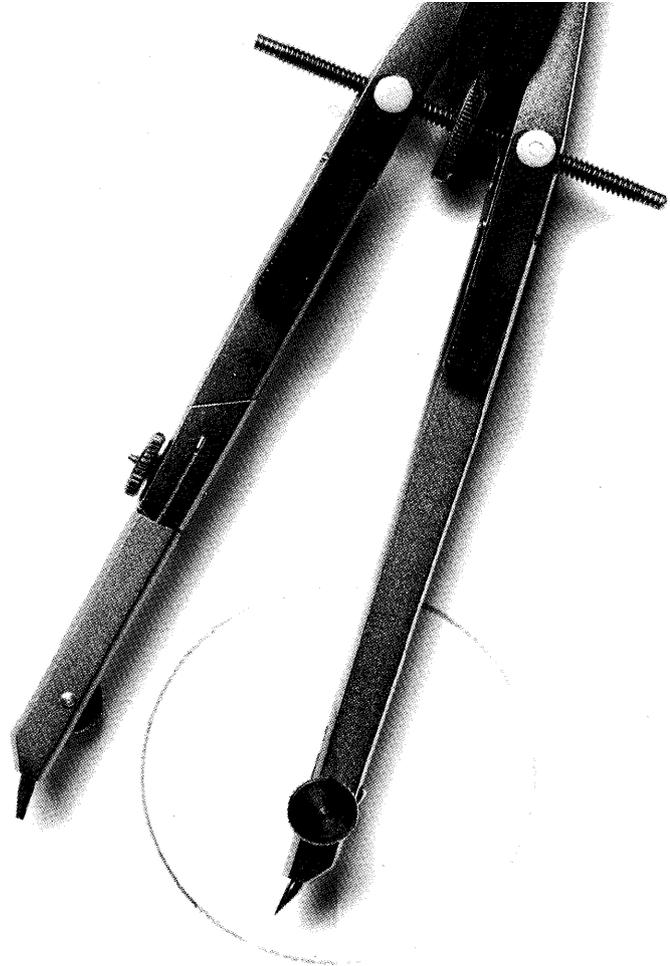
彼は紙幣を数え、驚いたことに1枚を返してきました。「もらいすぎです」と彼は説明しました。新しい紙幣が張り付いていたため、紙幣をたくさん渡しすぎていたのです。

「ありがとう。あなたの正直さに感謝します」と妻が言いました。

「いえ、私はあなたに対して正直なわけではありません」とその男性は答えました。「私は、自分と自分の家族に正直でありたいと思っているのです。不正直な手段で得たお金で自分の家族の食料を買いたくないだけですよ。」

私たちは、人でのぎわう騒々しい通りに戻りながら、値引交渉で得た以上のものを得たことに気付きました。真新しい紙幣1枚のために自分の徳を売るようなことをしなかったアラブの友人の思い出を心に残すことができたのです。□

祝福師の 祝福に添って 人生を計画する



七十人
リチャード・P・リンゼー

私は幼いころに父を肺炎で亡くしました。その数日後、当時14歳だった兄も別の病で亡くなりました。1930年代初頭、国中に大恐慌の嵐が吹き荒れているさなかのことでした。失業者が増加し、思うような収入も得られない時代でした。看護婦だった母は、そのような時代にあっても苦勞して私たち5人の子供を養ってくれました。子供の私たちにとっても生活は楽ではなく、これからどうなってしまうのだろうと思ったこともよくありました。

しかし、そのような苦しい時期にあって、きのうのこのように思い出されるひとつの出来事がありました。その出来事によって私は、勇氣と希望を持って自分の将来を考えられるようになったのです。

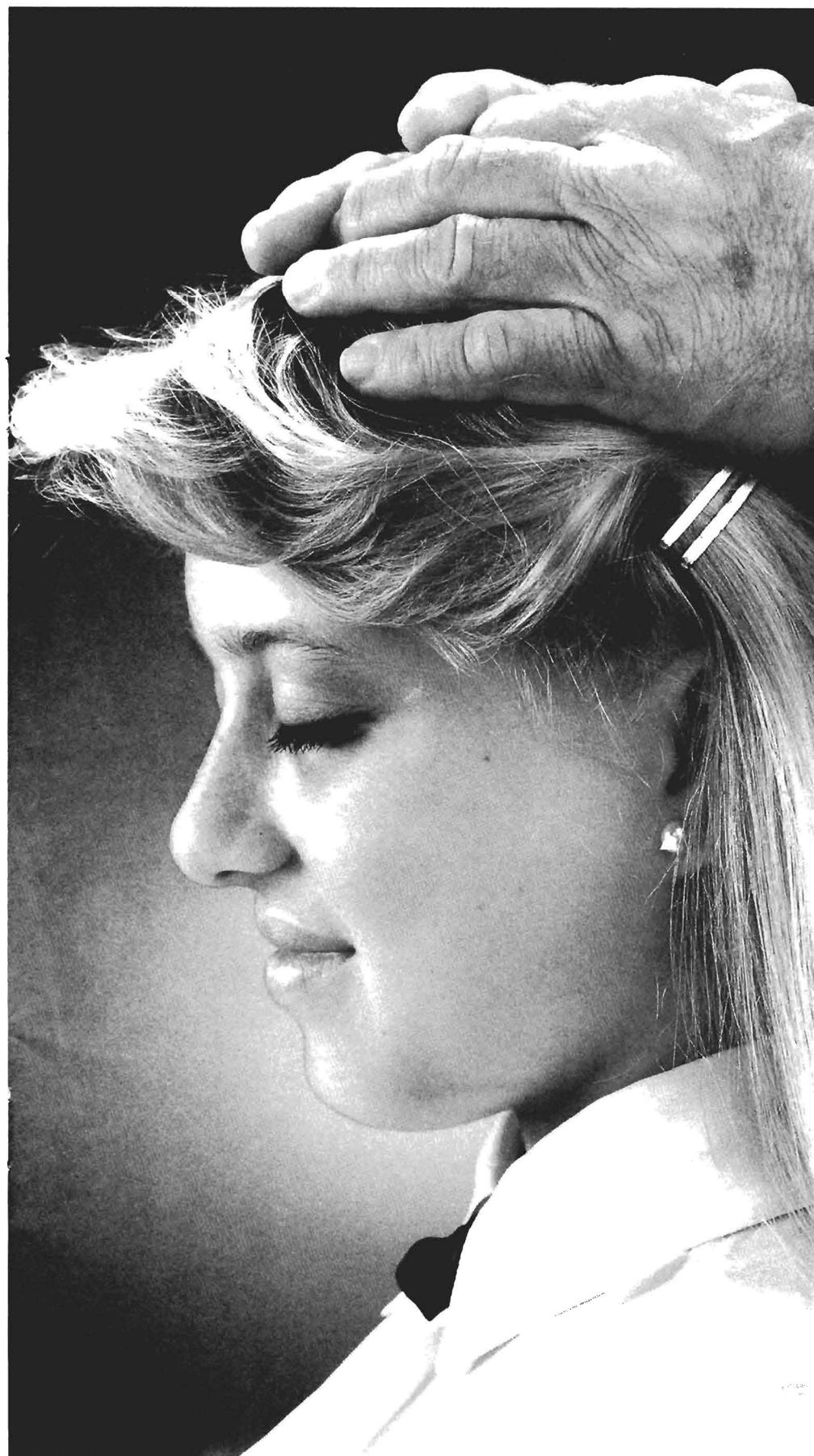
父が亡くなって1年ほど過ぎたころ、父のいとこにあたるイズリール・ベニオン兄弟が我が家を訪れました。それ

は親睦しんぼくのためではなく、ステーキ部祝福師としての訪問でした。私たちは体をごごし洗い、よそ行きの服を着て、その威厳のある男性が私たちの頭に手を置いて、祝福師の祝福を授けてくれる順番が来るのを待ちました。

当時私はまだ7歳で、自分になされていることの大切さを十分に理解できる年齢ではありませんでした。(教会では現在、祝福師の祝福を受けるのは、それを理解できる年齢に達するまで待つように勧められています)しかし、そのとき私は、断食証会で感じる気持ちにも似たとても敬虔けいけんな気持ちになりました。祝福は簡潔なものでしたが、生涯を通じて進むべき道を決める際の導きとなるであろう、という彼の言葉が心に残りました。

幼いながらも私は、ベニオン兄弟から授かった祝福の言葉に強い印象を受けました。ベニオン兄弟は私が成長す

祝福師の祝福は
生涯を通じて
導きを与えて
くれます。



●祝福師の祝福を受けるにはどうしたらよいのでしょうか。正式な手順を踏んで、まず監督に話すことから始めてください。監督は、皆さんの疑問に答え、準備を助けてくれるでしょう。そして準備ができたときには、推薦状を発行してくれるでしょう。

●監督は、祝福師の祝福の神聖さを正しく理解できるだけの年齢に達しており、十分な期間、教会員として生活している人にだけ推薦状を発行するよう指示されています。

●祝福師の祝福は祝福師とふたりだけの場所で授けられます。しかし、家族が2、3人その場に同席しても差し支えないでしょう。祝福師との約束の日^{ひんさん}に、謙遜な態度と祈りの気持ちで臨んでください。断食をするのもよいでしょう。

●家族以外の人と祝福文の内容を比べて話し合ったりしないでください。教会の集会や公の場で読み上げるべきでもありません。

●祝福師の祝福は、皆さんの運命を告げるものではありません。皆さんが成熟し、靈性を高めるための導きのよりどころとなるものです。どのような祝福についても言えることですが、祝福師の祝福が成就するかどうかは、個人のふさわしさを守り、みたまと調和した生活が送れるかどうかにかかっています。

る過程で主のみたまが共にいてくださるであろうということ、また福音の教えがいつも心の中にとどまること、主のみ業を愛するようになること、主が私を祝福してくださることなどを告げてくれました。

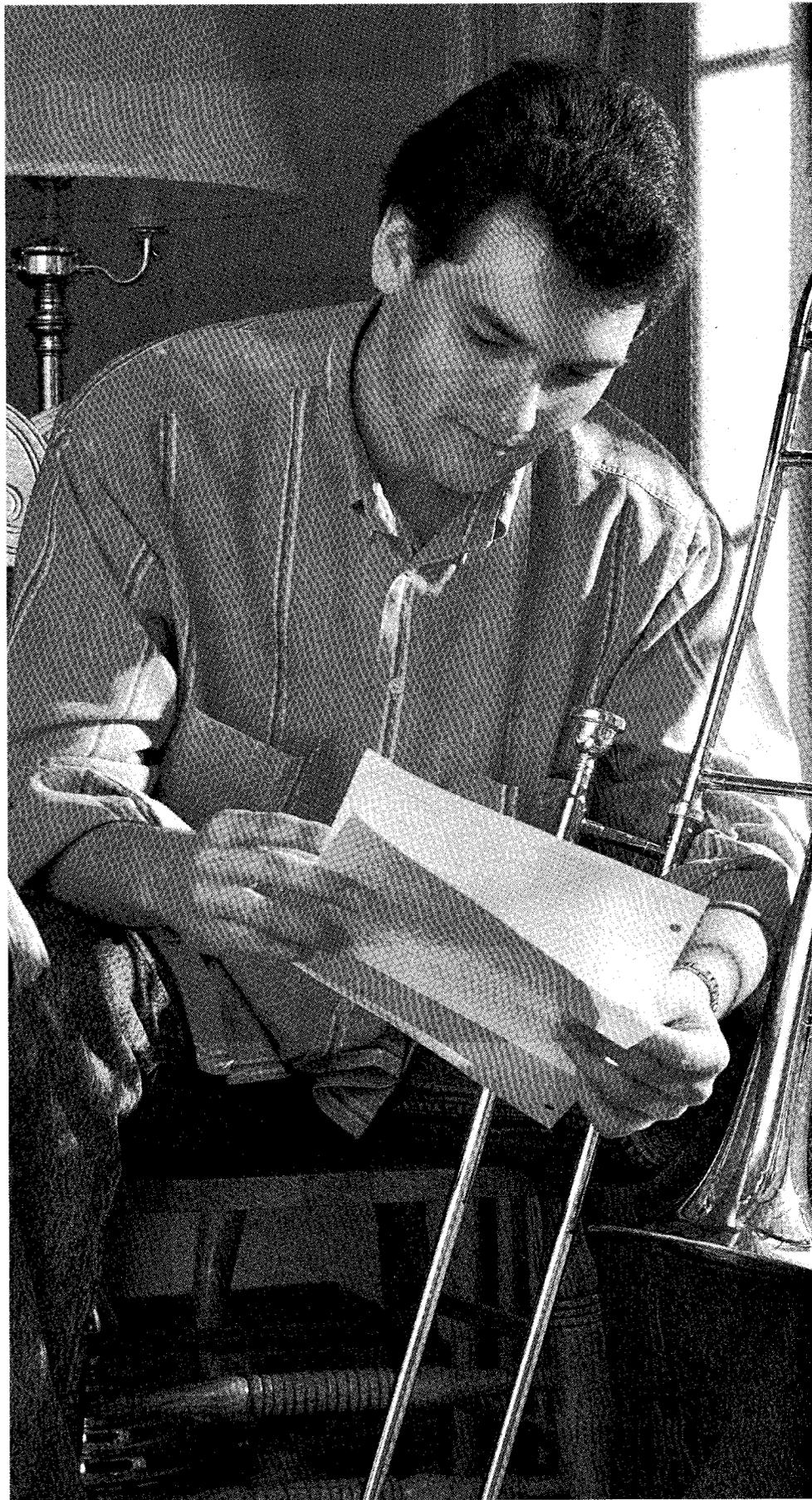
私の将来についても触れ、「イスラエルの判士」となる日が訪れることや、子供を持つこと、健全な身心を賜わることも言われました。

最も心を奮い立たせてくれたのは、私が文字どおり神の子供であり、主が私と私の行ないを見ておられること、私が正しい道を歩む限り主が助けてくださることに対して理解の目が開けるよう祝福されたことでした。

私が受けた祝福師の祝福は、わずかに263語から成る文章にすぎませんが、読むたびに深い感銘を与えてくれます。これまで何十年にもわたって祝福文を読み、それについて深く考えてきましたが、そこから受ける感動が薄れたことは1度もありません。

7歳の子供にとって「イスラエルの判士」という言葉は、理解するには深遠すぎました。しかし十代になるころには、それが監督の職を表わすのに用いられることがわかりました。自分が監督になるなど想像もつきませんでした。本当にそのような日が来るなら、それにふさわしく生活しようと思いました。そのためにも私は誠実で高い標準に従った道徳的に清い生活をするよう努めました。(結局私は監督の職に召されましたが、召した相手は私が受けた約束のことは何も知りませんでした)

第二次世界大戦中、合衆国海軍に従軍した際も祝福文を携えて行きました。それまでユタ州の静かな開拓者の町テラーズビルで育った私は、世の影響力から守られて内気な性格の子供とし



て育ちました。そのような私が荒々しい生活に飛び込んだのです。そこでは神を冒瀆する不敬な言葉が飛び交い、自分の不道徳な行ないを毎日のように自慢している人々がいました。しかしここでも再び、祝福師の祝福は道しるべとして役立ちました。その中の約束によって、自らを清く保ち、戦場でも生き長らえて神の王国で奉仕できるという希望が得られました。

ヨーロッパでの伝道中も、力強く福音を宣べ伝えるであろうという祝福文の言葉によって、自分は「主の用向を有てる者」(教義と聖約64:29)であり、権威を持って話す必要があることを、心に留めることができました。伝道から帰還して、結婚相手を探し始めたときも、私がふさわしさを保てるように助けてくれる女性を探さなければならぬと思っていました。私が授かった祝福師の祝福には、すばらしい子孫に恵まれる喜びについて言及されていたからです。私は現在、6人の子供とそれぞれの伴侶と一緒に神殿に参入する喜びを味わっています。まさに喜びと楽しみを子孫の中に見いだしているのです。

私の祝福文の中には次のような一文があり、読むたびに興味をそそられます。「あなたは主のみ業の中であって、偉大な発展を目にするでしょう。シオンは世のしんがりに位置するのではなく、先頭に立って世を導くものだからです。」全世界での主の教会の成長と進歩を見るにつけ、この言葉が何度も私の心に去来しています。

私が授かった祝福師の祝福は簡潔なものでしたが、確かに生涯を通じて私を導いてくれました。皆さんが自分の祝福師の祝福を繰り返し読み、それに添った人生を歩むなら、皆さんにとってもまた、祝福師の祝福は同様の効果

を表わすでしょう。この試し多き時代にあって、皆さんが信仰を危険にさらすような誘惑や圧力に直面するとき、

祝福師の祝福が大きな力の源となって、愛に満ちた天父への信仰が徐々に増し加えられていくことでしょう。□

「祝福師の祝福」という祝福

祝 祝福師の祝福は将来のためばかりに受けるものではありません。祝福師の祝福を受けること自体が祝福であり、主の目から見て自分がどれほど大切で素晴らしい存在かをじかに知る機会になります。それでもやはり次のような不安があるかもしれません。

1. 自分が祝福師の祝福を受けるに十分な年齢に達しているか、または十分な準備ができていないか、確信がない。

親や監督と話して試してみたいか、彼らに、自分が十分な年齢にあると思うか、あるいは準備ができていないか尋ねてください。

2. 両親が受けた祝福師の祝福について聞いてもよいのでしょうか。

両親が祝福師の祝福を受けているならば、あなたに伝えてもいいと思うような部分がないか、尋ねてみてください。きっと、皆さん自身が両親に約束された祝福のひとつであることに気付くでしょう。たとえば、両親が義なる子孫を授かるという約束を与えられていたとしたら、皆さん自身がそのすばらしいきずなの一部なのです。

3. 両親が教会員でない場合や教会に行くことを好ましく思っていない場合はどうしたらよいのでしょうか。

監督や祝福師に相談してみてください。親の理解を得る方法について提案を得られるでしょう。

4. 自分に祝福師の祝福を受けるだけのふさわしさがあるとは思えません。

もしふさわしくないと感じるのであれば、ふさわしくなってください。正しい生活を始めてください。必要ならば両親や監督に話してください。しかし、私たちは皆、学び成長する過程にあることに心を留めてください。祝福師の祝福を受ける大切な理由のひとつは、導きと力を受けることなのです。

5. 主が私に望んでおられることを示されるのではないかと不安である。

実は、主は皆さんに対するご自分のみこころをすでに示しておられます。正しい生活、従順、憐れみ、誠実などがそれです。皆さんはこれまでの生活を通して、これらのことを教えられてきました。バプテスマを受けたとき、聖餐を受けるとき、神権を受けたときに、すでにその決意をしています。祝福師の祝福とは皆さん一人一人に対する主の愛の表われであることを、心に留めてください。それはほかの何にも増して、自分に秘められた驚くべき可能性と、戒めを守る皆さんに主が備えておられるすばらしい祝福について、聖霊を通して理解する助けとなるでしょう。□



独身女性の人生の目的

女性にとって人生の最大の目的は妻や母親になることであると教えられてきました。もし、それが真実なら独身女性である私の人生における目的あるいは価値は何なのでしょう。

本誌の答えは問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

回 答



ユタ州プロボ市、宣教師訓練センター副ディレクター、中央扶助協会管理委員会、メアリー・エレン・エドマンズ姉妹

同 じ悩みを持つ独身の末日聖徒は大勢います。しかし、将来について正しい見通しを持てば、女性として本来備わっている価値、自己の進歩やほかの人々に対する貢献という面での可能性について、見方が大きく変わってくるでしょう。

モーセの書1章39節で主は、主の業と栄光は「人に不死不滅と永遠の生命をもたらす」ことであると言われて

います。私たちは天父の霊の子供です。私たちの価値は置かれている状況によって決まるのではなく、従順や正しさの程度によって決まるものでもありません。私たちの価値は神の子供として生まれながらに受け継いだものです。置かれている状況や行動、態度、考えがどのようなものであっても、天父の私たちに對する愛や、天父のみこころや計画の中における私たちの値が変わったり、低くなったりすることはないのです。私たちのふさわしさは私たち自身が何を選ぶかによって変わるかもしれませぬ。しかし、私たちの本来の価値は、すべてをご存じですべての人を愛してくださる天父の目から見て永遠に変わることはありません。

もし、私が今結婚しているかまたは子供を持っているかを基準にして、天父の私に對する愛や、私の価値に對する天父のみこころを判断したとすれば、私は独身女性として、大きな思い違いをしていることになります。さらに、結婚をしていない人、子供のいない人は価値がなく目的もないという考えが正しくないのと同じように、結婚をし

ていることや子供のいることが、自動的に幸せをもたらすという考えも正しくありません。子供を持ちながらも、人生に打ちのめされ、自分の価値を見いだすことができず、孤独や疲れ、満たされぬ思いを感じている女性は大勢います。

独身の末日聖徒の女性たちの中に、落胆し、人生に消極的になり、自尊心を失い、自分は欺かれているとか必要とされていないと感じ、いつも自分のことばかり考えている人を見受けられるのは残念なことです。こういった状態になると普通、過度な自己憐憫に陥っていきます。

ほかの人々との間に壁を築かず、交わりを持ち続けるのは、独身女性にとって努力のいることです。しかしその努力を怠ってサタンの言うことに聞き従えば、ほかの人が私たちより幸福でより多くの機会に恵まれているという憤りが容易に増長してしまうでしょう。

独身女性にとって望ましいのは自分にとっての最高の状態に到達しようとすることであり、無私の心で人のために働き、奉仕することです。そして、あらゆる経験から多くの有益なことや喜びを得ることです。この世の中のどれもが私たちの持っていない何かを持っています。反対に私たちもほかの人が持っていないものを何か持っているものです。それらを分かち合うなら、自分の抱えている問題や不平、精神的な苦痛を克服するのに大いに役立ちます。

さらに、私たちが持てる時間をすべてひとりで過ごしていたら学べないこともあります。私たち自身の望みや必要を優先して自分のことだけを考えて気楽に過ごすこともできるかもしれませんが。しかしそうする代わりにほかの人と共に生きること、すなわちだれかと共に学んだり、ほかの人から学ぶ努力をすることは私たちにとって重要な事柄なのです。この世における大切な目的のひとつは、愛と尊敬によって結ばれた社会で共に生きるすべを学ぶ点にあるのです。

事実、人生における私たちの目的のひとつは天父がされるように人に接する方法、「兄弟を己が身の如くに思う」(教義と聖約38：24-27参照)方法を学ぶことにあります。人を傷つけたり、怒らせたりすることに責任があると同様に、どのように人を向上させたり、祝福したりするかということについてもおそらく責任があるのです。この点に関して私たち皆が次の事柄を自覚するのは大切です。すなわち、独身の人すべて、特に独身女性一人一人が自分には価値があり、ほかの人から受け入れられ、役立っていると感じられるように、できる限り手助けをするのです。人生において何が本当に大切なのかを十分に理解した上で多くの人に向かって真理を掲げるとき、私たち自身が親切でやさしい者となれるように祈っています。

それでは何が一番大切なのでしょう。それは私たちが神と同胞を愛する

ことです。そして、天父が私たちにくださった賜を分かち合うことです。天父が一番喜ばれるのはこのことなのです。私たちのしている行ないが天父を喜ばせているか、天父のみ業を成就する助けとなっているか、救い主の再臨のためにこの世を備えるのに役立つのかを知るのは、私たちの生活にあっていかなる場合にも大切です。それ以外の何であってでもこれ以上の大きな平安をもたらすことはありません。

自分の受けている多くの祝福を数え上げ、一つ一つ口に出してみるなら、今まで気付かなかったことが明らかになり、また神聖な経験となります。私たちは、このような祝福を可能にしてください。天父にどのように感謝と賛美を捧げ、信頼し仕えるべきでしょうか。(モーサヤ2：19参照)

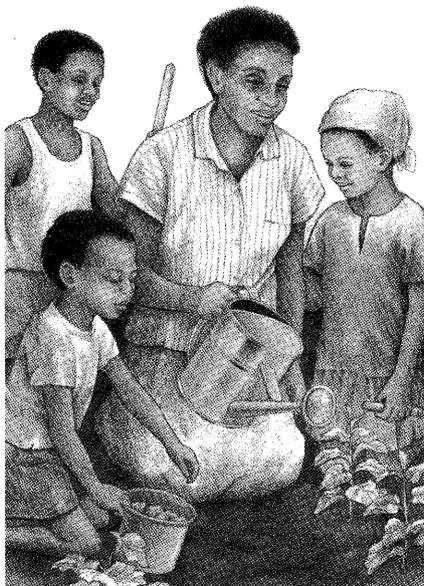
まだ手にしていないものより、受けているすべての祝福に心を向けるなら、人生により多くの満足を見いだすことができます。私たちには信仰、希望、愛が与えられています。(Iコリント13：13参照)また、肉体が与えられています。悔い改めて自分を変える機会や、神のようになる機会が与えられています。私たちには時間や自由意志、靴や水が与えられ、また読み、考え、祈る能力も与えられています。これらのすべての祝福は、「神はあなたを愛しておられます。あなたたちの値は神の前に大いなることを心に留めてください」(教義と聖約18：10参照)と私たちに教えようとしているのです。

天父は私たちの理解を超えた賜を取っておいてくださっているという約束が、私たちには与えられています。エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のように言われました。「教会のすべての女性が、現世において結婚し、母親となる機会を得られるわけではないことも理解しています。しかし、たとえ現世でそのような機会が得られなくても、ふさわしい生活をし、忠実に耐え忍ぶなら、やさしく慈愛に満ちた天父が必ずやすべての祝福を与えてくださいます。すべての祝福をです。

皆さんに約束します。ふさわしい伴侶を来世まで待たなければならぬとしても、神はきっと皆さんに埋め合わせをしてくださるでしょう。時を数えるのは人間だけです。神は皆さん一人一人を、永遠の見地に立って心にかけておられるのです。」「『独身の姉妹たちに』「聖徒の道」1989年2月号、p.102)

私たちは特定の境遇に左右されて、自分の幸福や自尊心を見失わないように注意しなければなりません。そして、信仰、感謝の気持ち、どんな状況にあってもうまく対処していけるという展望を持たなければなりません。そうして初めて、天父を完全に信頼するようになり、私たちに對する天父の愛、天父の目から見た私たちの価値や目的を深く知ることができるようになるのです。□

愛——無私の奉仕



「愛はいつまでも消え失せることがない。」(モロナイ7:46)

もしかすると私たちはこの聖句の意味や、この聖句がどのように生活の中に生かせるのかを、十分には理解していないのかもしれませんが。とはいえ、奉仕の中で体験する喜びを通して、この聖句が真実であるという証を得ることができます。

キリストの純粋な愛

愛は、姉妹たちの生活を貫く基本原則です。どのような地域、どのような境遇の中に置かれていてもこれは変わりません。不都合なときでも報いを求めずに奉仕ができるのは、姉妹たちの中に愛があるからです。

「この愛はキリストの純粋な愛であ」と、モロナイは教えています。(モロナイ7:47) 私たちはこの種の愛を示す機会に日々恵まれています。

たとえば、ジュリア・マビンベラ姉妹は南アフリカ、ヨハネスバーグ近郊の町、ソウェトで地域社会に奉仕しながら、この愛を実践しています。彼女は文字が読めない人々の数を減らし、様々な社会問題を取り除くために働いているのです。政府や地域社会の指導者と協力して働く傍ら、子供たちと一緒に園芸も始めました。この子供たちの両親の多くは政情の混乱のために仕事に就けずにいます。子供たちは園芸技術を両親に伝え、こうして大勢の家族が家庭菜園を始めるようになりました。これを見ていた近隣の人々も同様

に家庭菜園を始めるようになったのです。マビンベラ姉妹は、この世の苦難を軽くしているだけではなく、同じ地域社会に住む多くの人々の社会的、精神的な必要も満たしているのです。

キリストが示されたと同じような方法で奉仕したいという気持ちを起こさせるこの種の愛は、どのようにして育てることができるでしょうか。

ごく普通の方法で愛を示す

奉仕の機会は、大抵の場合、見た目にはごく普通の方法で訪れます。世界中の女性が無私の精神をもって訪問教師として働いています。彼女たちが担当先の女性を愛し、励まし、歓待し、教え、強めるとき、主のみ手に使われる器となって働いているのです。多くの場合、彼女たちはかなりの個人的な犠牲を払ってそうしています。

母親は自分の子供たちを愛し、教え、しつけるために、毎日、絶え間なく働いています。ほかの人の子供をレッスンや活動を通して教え、訓練するために姉妹たちが召されることもたびたびあります。

キリストの純粋な愛を心の中に持った女性は、落胆したり元気をなくしている人々の声に耳を傾けます。彼女たちは「これらの最も小さい者」(マタイ25:40)に、批判せず、無条件に受け入れる態度で奉仕します。そして、「弱きを助け、垂れたる腕を挙げ、かよわきひざを強うす」ることに努めています。(教義と聖約81:5)

愛を示せるごく普通の小さな方法には、どのようなものがあるでしょうか。

「努めて善き業に従い……」

愛の実践は人に言われてすべきことではありません。女性は「努めて善き業に従い、多くの事をその自由意志によりて為し、多くの正しき事を為し遂げ」ることができます。女性の「中に自由の意志ありて〔彼女たちは〕己れの事を自ら為す者」(教義と聖約58:27-28)だからです。救い主が一人一人に示された思いやりある行ないの模範を見れば、期待される以上に親切な行ないをするには、どのようにすればよいか分かるでしょう。

キリストが抱いておられる慈愛の心をもって奉仕するとき、私たちの働きに主の祝福が注がれるでしょう。そして「神の現われたもう時には……〔私たちは〕神に似た者になる」でしょう。(モロナイ7:48) 主と同じように愛することを知っているからです。

愛を実践するときどのような点で成長できるでしょうか。□

ストレスや落胆に 対処するには

皆さんが豪華な食事の席に招待されておられ、おいしそうな料理が次から次へと運ばれて来ているとします。

ところが、席に着くなり食事の時間はわずか3分しかないことを告げられます。皆さんはきつと、せっかくの優雅な気分が一瞬にしてストレスと化してしまったと感じることでしょう。

確かにこれは極端な例かもしれませんが、普通の生活の中でストレスが生まれる背景はえてしてこういう場合が多いのではないのでしょうか。美しく整えられたテーブルでおいしい食事を満喫するにはとても3分では足りません。同様に日常生活においても、能力以上のことを求められると圧倒されるような気持ちになるものです。

家族を持つ人々の中には、このような気持ちになる人もいるでしょう。そこには育ち盛りの子供たちがいて、一人一人に対してそれぞれ時間を割り、注意を払わなければならないからです。おそらく皆さんのほとんどが、多くの活動を計画しすぎてまったく思うようにできなかった経験があることでしょう。家族のだれかが急ぎの用事に追われていて、こちらまでプレッシャーを感じることもあるでしょう。また家族の健康上の問題でいらいらしたり、短気を起こしたり、疲れたりすることもあるでしょう。

そのような例はいくつでも挙げることができます。専門家の中には、ストレスを感じる行動を、そのストレスの

多さによってランク付けしようとする人もいます。しかしストレスが生じる本当の原因は、かかわる出来事そのものよりも、それらをどう受け止めるかにあります。つまり状況の変化に適応する能力が、感じるストレスの度合いを左右するのです。ある人にとってはストレスを感じることで、別の人には必ずしもそうではないのはこのためです。

驚くべきことに、ある程度のストレスは人に良い影響を与えるという例もあります。リーハイが指摘しているように、人の成長のために、物事には必ず反対のものがなければならないのです。(II ニーファイ 2 : 11-16参照)たとえば、ストレスへの抵抗力の強い人は困難な状況に直面しても恐れずに、むしろ成長の機会として受け止めるということも調査で確認されています。ある企画のために週6時間働くことになったとしても、そこにその企画を成功させるための強い意志がある限り、それは刺激的で心躍る経験になり得るのです。すなわち、何がストレスを生むのかということよりも、いかにストレスに対処するかということの方が重要なのです。しかし同時に、ストレスにうまく対処するためには、ストレスの原因を見極めることも役立ちます。

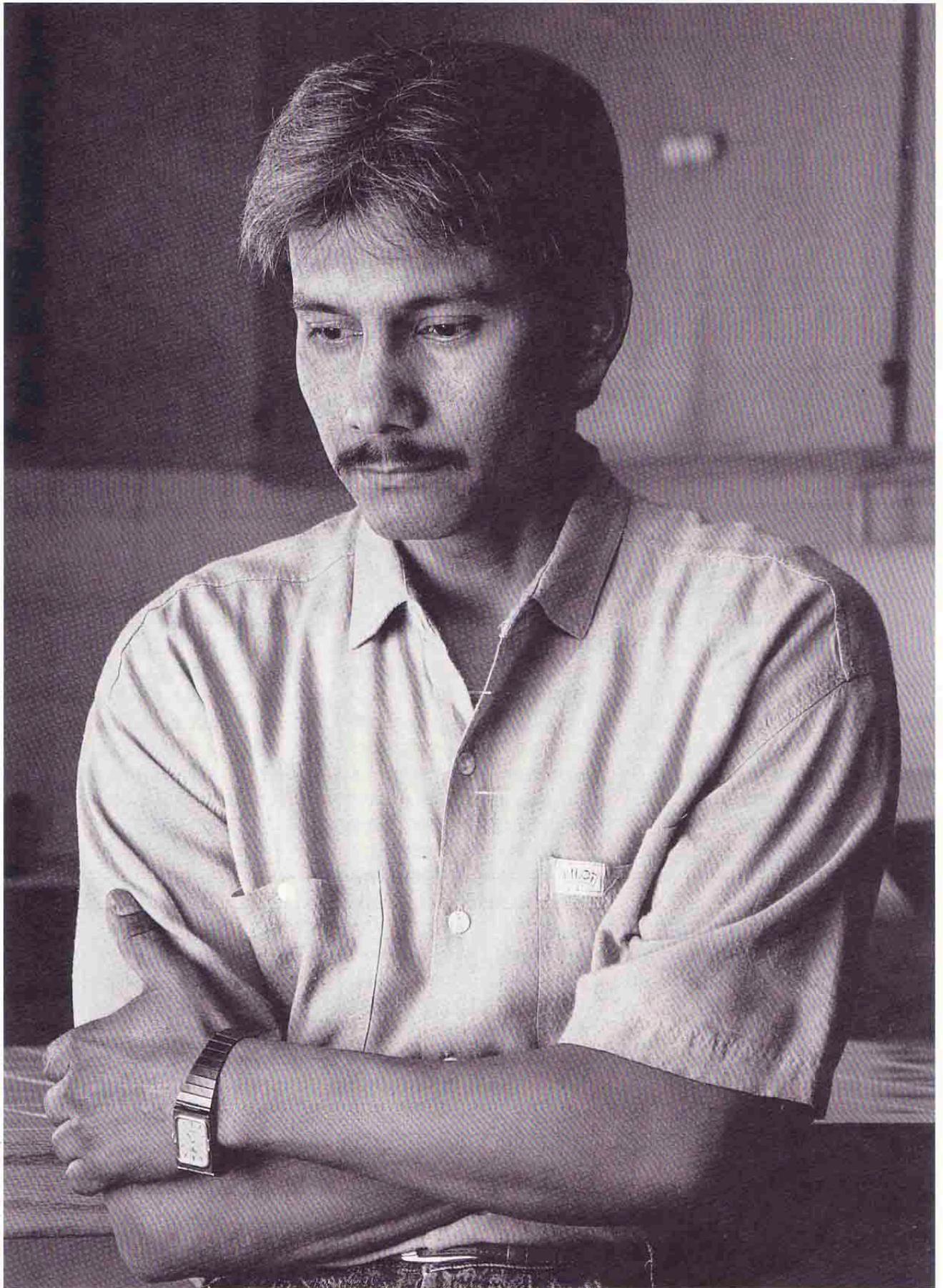
ストレスと緊張

技術者であれば、どのような建物を造る際にも圧力が不可欠な要素であることを説明できると思います。しかし、

圧力がかかる箇所にもあまりにも負荷がかかりすぎると、建物の構造自体に支障を来します。同じように、日常生活におけるストレスもある限度を越えると、もはや生産的な働きをしなくなり、心身に負担を掛けかねません。

両親が自分自身や子供たちに対し、その行ないや成果にもあまりにも完全さを求めるときには、極度のストレスが生じやすいものです。しかし実際は、人生で完璧に物事を行なえることなどは、そうそう多くはありません。ほとんどの人にとって、一番望むべきことは、天父が私たちのために示してくださった目標に向かって確実に進歩を続けることなのです。

ニール・A・マックスウェル長老は、かつてこのように言われました。「これ以上はもう何もできないと思うほどストレスを感じる状況にあっても、天父は私たちの力の限界をよくご存じであり、成功するためにここに送ってくださったのだと理解するなら、慰めを受けることができます。だれひとりとして、失敗したり、挫折したりする運命を背負って生まれて来た人はいないのです。私たちがその能力を『はかりで量られて、その量 [が] 足りない』(ダニエル 5 : 27参照)と判断されたときにも、私たちは前世で主に吟味され、与えられた務めを成し遂げる能力が十分であると判断されたのだということを忘れてはなりません。それゆえ、これからさらに主に従う者となるよう決心しようではありませんか。途方に暮



PHOTOGRAPHY BY CRAIG DIMOND

れて、くじけてしまいそうなときには、天父は私たちに能力以上のことは求めておられないことを思い出しましょう。天父は私たちに耐えられないようなことを強いられたりはしないのです。(教義と聖約50:40参照)、『今日の問題に取り組む』「年度講話」1978年、p.156)

ときには、自分や他人に期待しすぎないでただありのままを受け止めることが、ストレスに対処する最良の方法になることもあります。ときどき私たちは自分の能力以上のことをしようとしている場合があります。また、何をしようとしても完全にできない自分に腹立たしくなることさえあります。何事も完全にというのは、私たちの究極の希望ではありますが、現段階では、現実をありのままに受け止め、自分自身や他人に対してもう少し大目に見ることも大切ではないでしょうか。

ストレスに対処する

日常生活の中で生じるストレスにうまく対処するには、現実をありのままに受け止めることが非常に大切です。しかし、ほかにも良い方法がいくつかあります。次に挙げることは、きつと覚えていて役に立つことでしょう。またそれについて家族で共に話し合うのもよいでしょう。

霊性を維持する 祈りと日々の聖典学習を通して、信仰、希望、平安な気持ちなどの霊的な備えを十分に整えることができます。これらは私たちに単に霊的な強さをもたらすだけでなく、特定の問題に対する答えを見いだすのにも役立ちます。

負債を避ける 家庭内でのめんどりの一般的な原因のひとつに、財政的なストレスが挙げられます。教会の指導者は、今まで再三にわたって、予算の範囲内で生活し、負債を避けるよう勧告してきました。支出が収入を超えないように努めるならば、それが習慣となり、私たちのほとんどが感じる財政的なストレスの大部分は確実に軽減さ

れることでしょう。

健康を維持する ストレスに対処するためには、肉体に休息を与え、運動と適切なダイエットをしなければなりません。好きなスポーツに打ち込むことも、リラックスするための良い方法です。

優先順位と目標を決める 自分がやりたいと思うことをすべて行なえないとしたら、少なくとも最も重要なことだけは果たせるような優先順位を決めてください。個人として、また家族として1日単位、週単位、月単位、またそれ以上の長期的な目標を立てる必要があります。それから目標を途中で投げ出さないためにも、その目標を達成するための計画を立ててください。計画を立てることによって、何に重点を置いて努力するかが決まり、やる気も出てきます。また予期せぬことに出くわしたり、必要な責任をないがしろにしたりといった失敗に至る危険を避けることもできます。

いつもの習慣ややり方を変えてみる いつもより1時間早起きするだけで、自分の生活をもっとよく管理できるようになります。そして、それまでできなかったような多くの事柄をこなすためのじゃまの入らない時間を持つことができます。また、少し仮眠を取ることも必要な気分転換になる場合があります。

生活のペースを変える 生活のペースを変えてみると、気分が一新され、いつものあわただしい生活のサイクルに落ち着きを取り戻すことができます。わずかな間でも自然の美しさに目を向け、数分間でも落ち着いて心の整理をし、さらにもう少し時間を割いて良い本を読み、一番好きなこと(何もしないことでも構いません)をやってみるならばプレッシャーの高まりを和らげる助けとなります。

フラストレーションを解消する 自分が抱えている問題を家族に話すことで、ストレスを和らげられるだけでなく、ストレスを生じている状況を改善

する方法を見いだすうえで家族の協力が得られます。また日記をつけるようにすると緊張や日々のストレスを和らげるのに役立つような洞察力が培えます。日記帳やノートに自分の気持ちを書き留めておくことの大切さを子供たちが理解できるようにしてあげるのはとても賢明なことです。

ある大家族の母親は、このように打ち明けています。「わたしのノートや日記帳はとてもお金では買えない、価値あるものです。人によっては専門のカウンセラーに、自分の気持ちを打ち明けて聞いてもらう人もいます。私にとっては自分の考えや気持ちを書き留めることが、自分の内面的な事柄に関して啓示を受ける大切な手段になってきました。またストレスや落胆、または何かの理由で失望に打ち負かされそうときは特に、自分の正直な気持ちを書き留めます。(そのようなときは、『私は……のように感じる』という文の羅列になりがちです)大抵は、気持ちを実際に文字にすることで自分が何に悩んでいるかを明確にできます。そしてより効果的にそれらの問題に対処できるのです。本当に自分を煩わせているものがわかるまでは、フラストレーションでまるまる1ページぐらい書き連ねてしまうこともあります。このように日記を書くことで、私は自分自身をより深く知るようになりました。」

リラックスし生活を楽しむ もっと気分を楽にして、子供や伴侶、友達と楽しい時を過ごす必要のある人もいます。喜びを感じる能力は神の主要な属性のひとつであり(III ニューファイ17:20参照)、現世での経験を通してあふれる喜びがもたらされることを、私たちはときとして忘れてしまいがちです。(II ニューファイ2:25;教義と聖約93:33参照)

ユーモアを忘れない 人生には深刻な事態がつきものですが、ユーモアのセンスによってその場の雰囲気明るくなることもよくあります。途方もない出来事に出くわしても、いつもそれ



を笑って済ませられたなら、かなりのストレスを削減できるでしょう。家庭の中で笑いは、極端なストレスによる摩擦を和らげる格好の潤滑剤となるのです。

落胆に対処するには

対処するうえで最もむずかしい感情には、落胆、失望、憂うつ、罪悪感や心配事などがあります。

エズラ・タフト・ベンソン大管長はかつてこのように言われました。「主が予告されているように、私たちは現在人々が肉にあっても、また霊にあっても恐れおののいている時代に生きている。(教義と聖約45:26参照)多くの人はこの人生の戦いに疲れ、落胆している。最近の大学生のおもな死因は自殺であると言われている。また試練と苦難の伴う善悪の最後の対決の時が近づくとつれて、現在サタンは失望と落胆、意気消沈、憂うつをもって聖徒を打ち負かそうとますますその力を増している。」(『落胆してはならない』「大会報告1973—75」p. 270)

あまりにも頻繁にこのような否定的な感情にかられる場合、周りの人々から助けを得ることさえむずかしくなってきました。こういったあいまいで漠然とした問題ほど克服しにくいように思われますが、少しだれかと話してみても、異なった視点で考えてみると対処することもよくあるものです。子供たちが小さいうちから、何でも思ったことを両親に話せるようにしつけるならば、子供たちを待ち受けるこのような救いようなない荒廃した気持ちに打ち勝つ力をはぐくんでいけます。

子供たちの抱える問題が複雑で長い間解決できないでいる場合、子供たちとよく意思の疎通を図っている愛に満ちた両親でさえ、残念ながらまったく助けにならないことがあります。このような子供たちには専門家の助けが必要です。しかしほとんどの場合、その必要はありません。私たち自身や子供たちの問題のために落胆したり、とき

には意気消沈してしまうこともあるでしょうが、このような感情も通常は、戒めに従って生活していく中で克服できます。つまり悔い改め、祈りと断食、奉仕、勤勉、健康管理、読書、忍耐、精神を高揚させる音楽を聞くこと、友達、励ましと靈感を受けるための神権の祝福などです。

家族や友達が情緒的な問題に直面しているときこそ、私たちが親として最もキリストに似た者となるよう求められるでしょう。次のようなマービン・J・アシュトン長老の勧告がその助けとなります。「現代最大の奇跡のひとつは、悩める魂を癒し、起こすことである。……〔私たちは〕家族の手を取って、自分たちの愛がいつも変わらない真実の愛であることを示さなければなりません。」(『イエスが手を取って起こされる』「大会報告1973—75」pp. 128—30)

アシュトン長老の勧告を実行するために、私たちにできることがいくつかあります。家族の話に耳を傾けること、また家族が気持ちを素直に表わせるようにしてあげることなどがそうです。また家族がときどきいらいらしたり混乱したり、また失望したりすることがあっても、決してそれは不自然なことではないと彼らを安心させてあげる必要があります。

決して裁いてはなりません。「あなたさえ……していればこんなことには」とか「きっとこうなるって言ったじゃない」とかという言い方は単に人の気分を害するだけです。自分ではどうしようもない出来事に対しては、自分に落ち度はなく、罰せられることもないのだと家族が理解できるようにしてください。家族のだれかが自分で責任を負わなければならない過ちを犯してしまったときには、自分自身を赦し、悔い改めることによって、その問題を克服するよう彼らを助けてあげてください。

家族が霊的な洞察力を身に付けられるよう助けてください。また人生にお

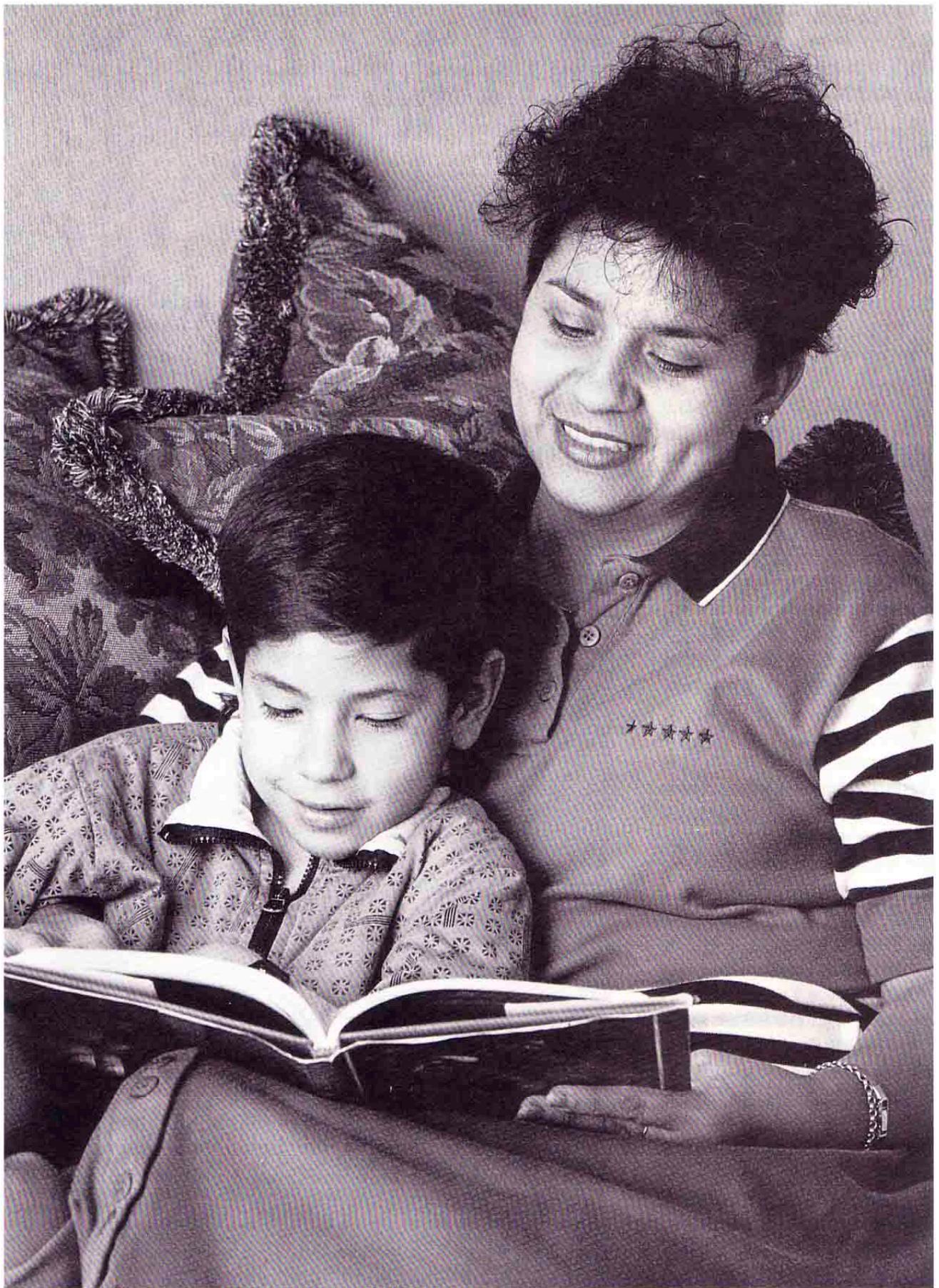
ける試練の意味を彼らに思い起こさせてあげてください。そして希望を持つようにしてください。永遠の見地に立った洞察力、問題に対する必要な理解力を主に願ひ求め、共に祈ることも大切です。

家族と共に過ごす時間を持ってください。子供や伴侶が問題について話したり気持ちを打ち明けるときには、いつでもそのために時間を割いてください。ときには、ただ手を休めてそばにいてあげるだけで、混乱した気持ちが和らげられるものです。

必要に応じてほかの人々にも協力してもらってください。必要な助けを与えてくれる人の力を借りるのです。助けを必要としている家族のために共に祈ったり、働いたり、また援助するよう家族を励ましてください。もし必要であれば標準の点で家族と共通の認識を持った専門家に相談するのも良いでしょう。

無条件に家族を愛してください。結局のところ私たちが人々を助ける一番の方法は、真心から人々を愛することです。そうすれば私たちは人々の中に神の子としての永遠の価値を見だし、主が見ておられるように人々を見ることができるようになります。自分の子供たちにそのような気持ちをあまり感じていないならば特に、親としてこのような愛ある行ないをしていく必要があります。私たちは数多く弱点を持っていますが、主のように人々を愛せたら、力を合わせて何でも克服できるようになります。

イエス・キリストの福音はストレスを排除するよう求めるものではありませんし、だれもそのように考えるべきではありません。しかし福音により、私たちがこの世で遭う試練、つまり私たちの意に反するもの、そぐわないものについての意義を学ぶことができます。そして福音により「ますます知恵が加わり、〔成長し、〕そして神と人から愛され」(ルカ2:52)ようになるのです。□



「髪を切るだけで結構ですから」

ジュリー・マッキー

もう何年も前のある暑い夏の日のことでした。一刻も早く散髪を終えて店を出たいと思いながら、私はいすに座って耳の辺りでチョキチョキというはさみの音を聞いていました。何となく胸苦しさを覚えるのは暑さのせいばかりではありません。私の髪を切っている理容師は、確かステーキ部宣教師と言ったと思いますが、いずれにせよ、モルモン教会の宣教師でした。以前店に来たときに、彼はモルモン教会に対する私の否定的な態度を感じ取っていました。

「あなたが所属しているとおっしゃったのはどちらの教会ですか。」これが私には宗教の話に私を引き込む巧妙な言葉に感じられました。反射的に私は次に来る言葉が頭に浮かび、とっさにこう答えました。「髪を切るだけで結構ですから、説教はやめてください。」

モルモンの人たちは、私にとって珍しい存在ではありませんでした。私はユタ州ソルトレークシティで生まれ育ちました。地元のワード部の建物で行なわれたボーイスカウトの集会に出席していましたし、仲の良い友達も皆モルモンでした。しかし彼らは自分たちの教会についてあえて私に話そうとはしませんでした。多分それは私の態度のせいだったと思います。スカウトの集会が始まるのを待っていたとき、壁に掛かっている大きな絵は何の絵か友達に尋ねたことがありました。それまでの数カ月というものは、毎週そ

れを眺めながらそこに座っていたのでした。それは人々にモルモン経の版を見せた天使の絵であると友達に答えました。

天使だって。私の親友が一体どうしてそんなことを信じられるのでしょうか。実際に、分別がありながらそんなことが信じられる人がいるのでしょうか。このようなことがあったとはいえ、私がモルモン教会と初めて正面からぶつかったのはそれから何年も後になってからでした。

やがては起こることだったのだと思います。その夜、友達のところを訪ねていると、ふたりの女性がドアをたたきました。それはモルモンの宣教師でした。ふたりともやさしそうな女性でしたが、私はあまりいい気持ちでせず、むしろわなに掛かったと思いました。そこで私はふたりに議論を仕掛けることにしました。

「あなたは、聖書を信じていますか」とふたりは始めました。

「もちろんです」と私は答えましたが、本当は自分が何を信じているかわかっていませんでした。

ふたりの姉妹宣教師は神会には3人の別個のお方がおられることを示すために、まず使徒行伝7章55節と56節を読み始めました。それからジョセフ・スミス最初の示現へと話を進めていきました。私は彼女たちの聖典の解釈が間違っていることを示す答えがあり、その答えを見付けるためには助けが必要だと思いました。結局のところ、天

父と御子と聖霊は同一のお方であり、ただ姿を変えているだけであることはだれだって知っていると話しました。そして私よりも聖典をよく知っている人を話し合いに連れて来てよいかと尋ねたところ、宣教師はまったく構わないと言いました。

次の週、自分の属している教会に活発に集っているいとこと一緒に宣教師のところに行きました。それから後の話し合いでは、私は傍観者の立場に立ちました。もし私が公平であったなら、私はモルモンの宣教師に軍配を上げたでしょう。しかし、当然のことながら、私はいとこはただ十分な知識がないだけだと決めつけたのです。私は宣教師と対決するためにだれかもっと知識のある人を見付けようと思いました。

その週の間、私は牧師になるために勉強している友達と連絡を取りました。彼なら私の必要としている助けを与えてくれるだろうと思いました。

自分の置かれている立場を説明した後で、使徒行伝7章55節と56節についてどう答えたらよいか尋ねました。ところが大変驚いたことに彼はこう答えたのです。「あいにくだけど、君の役には立てないよ。ぼくたちの教会の大多数の会員と違って、ぼくは神会を成すお方を別々に分けて考えているからね。」

次に私が頼ったのは、近所に住んでいた牧師でした。彼は私の友達で、前に何度も話をしたことがありました。けれども使徒行伝7章55節と56節に対



「あなたが所属しているとおっしゃったのはどちらの教会ですか」という理容師の質問に、私はとっさに答えました。「髪を切るだけで結構ですから、説教はやめてください。」

する答えはまったく満足できるものではありませんでした。彼の答えはこうなのです。「石で打ち殺されようとしている人に何が見えるかなんて、わかるわけないですよ。」

私は宣教師に会うのをやめることにしました。もう話は十分に聞いたからです。私はふたりの宣教師に自分の気持ちを伝えました。すると彼女たちは私にモルモン経をくれました。もう私に教会に関心を持たせるために自分たちにできることは何も残っていないと考えたようでした。

それから数年後、別の町でふたりの宣教師が私のアパートの隣の部屋を訪れました。私は宣教師が私のところに立ち寄りなかつたことにほっとしました。その幸運を喜んでいたら、ドアをノックする音が聞こえました。宣教師でした。彼らに話す機会も十分与えないうちに、私は関心がないと言ってドアを閉めてしまいました。

このことがあつてからの数年間は、モルモンの宣教師が至る所にいるように感じられました。髪を切りに行った店の理容師までが私に説教をしようとするのです。数組の宣教師が私のもとを訪れました。何年前か前に、ふたりの宣教師が戸口の階段の所に立っているのにドアを閉めた自分の態度を多少恥ずかしく感じていたこともあり、聖典を車の中に置いて来ることと私に説教しないということを条件に、宣教師を中に招き入れるようになりました。宣

教師が来ると私はいつも不愉快になって、彼らが宗教について語るのを許そうとはしませんでした。

ひどく無礼なことをしないで宣教師を帰らせるにはどうすればよいだろうか。一体どうすれば。するとある考えが浮かびました。これだ、これで片が付く。ただ宣教師が間違っていることを証明すればよいのです。私は宣教師に彼らの教義が誤りであることを彼らの聖典を使って示そうと思いました。そうすれば今度宣教師が来て大丈夫だと思ったのです。

宣教師が間違っていると証明するためには、まず彼らの信条を知る必要がありました。どうすれば彼らの信条を知ることができるのでしょうか。そのとき何年も前にふたりの姉妹宣教師がくれたモルモン経を思い出しました。これだと思いました。引き出し箱の中にしまい込んだままになっていましたが、すぐに見付かりました。「何が書いてあるんだろう。ジョセフ・スミスの生涯の物語だろうか。モルモン教会の歴史だろうか。」私は何も知らなかったのです。ただひとつ確信していたことは、宣教師が次に来るときには、私は彼らを迎える準備ができていだろうということでした。

私はモルモン経を職場に持って行きました。職場では1日のうちに自由時間がいくらかあるのです。機会を見付けたときにモルモン経を開きました。どうしたことかそこにはジョセフ・ス

ミスについては何も書かれていませんでした。そして初めの方には、コロンプスに対する予言、アメリカ大陸における救い主やそこで繰り返し教えられた山上の垂訓など、興味深い事柄が紹介されているページがありました。この本は一体何なのでしょう。

モルモン経の中にジョセフ・スミスの生涯についての話がまったく載っていませんでした。私はモルモン教会の会員が経営するガソリンスタンドで、宣教師の使うある小冊子を手に入れました。ジョセフ・スミスについて知りたいと思い、最初の示現について読みましたが、何年か前に聞いていた記憶とはどこか違っているように感じました。私はモロナイという名の天使と金版について読みました。そして再びモルモン経に戻り、時間を見付けては読み続けました。

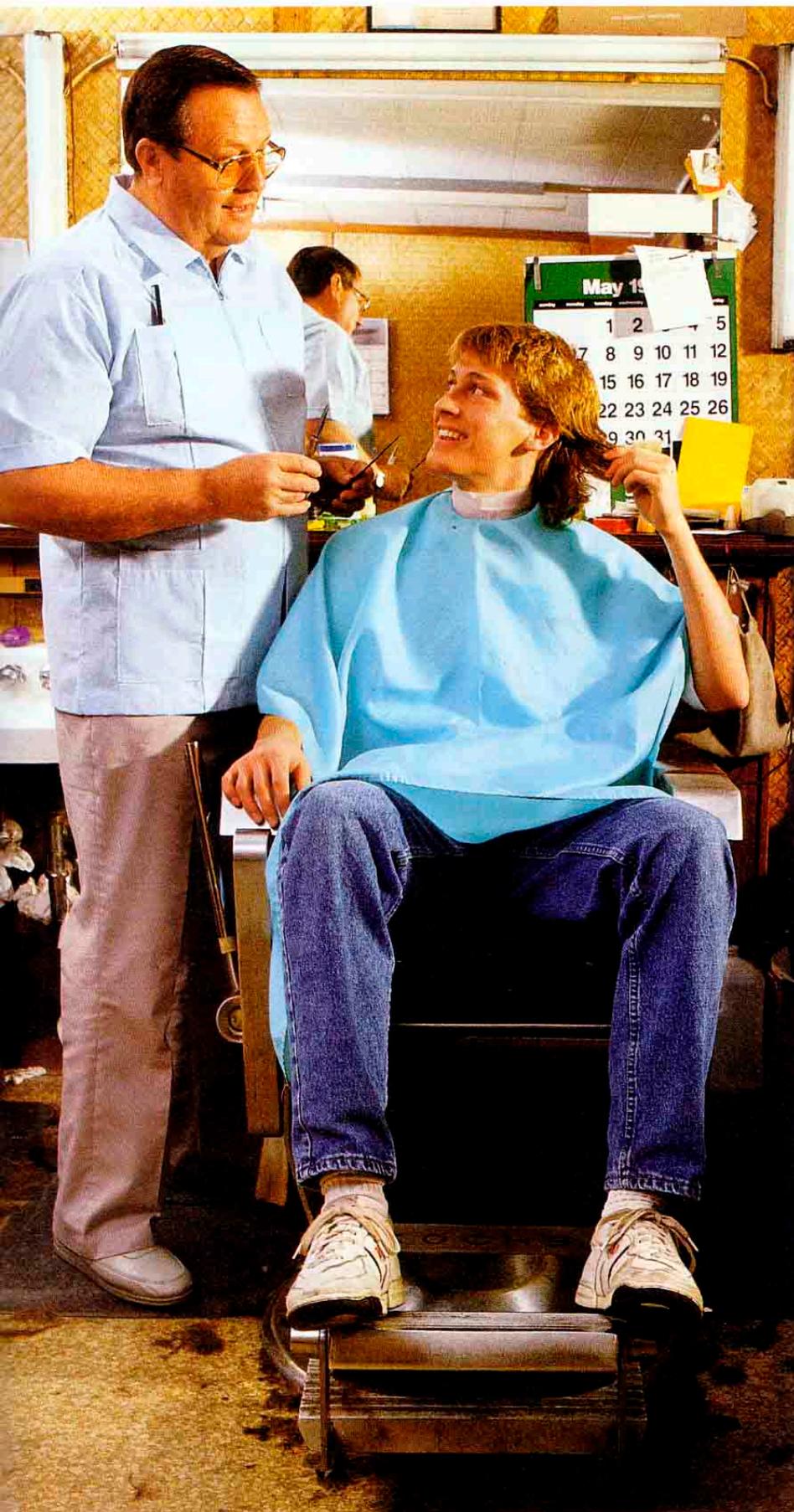
そうするうちにある奇妙なことが起こり始めました。私の敵意が弱まり始めたのです。実際、宣教師が間違っていることを証明したいという願望も消え失せてしまいました。モルモン経を初めて開いたときの単なる好奇心はほんの一時のもので、もっと知りたいという望みにすぐに変まりました。文字どおり手を伸ばしてこの書物へ引き込もうとするこの不思議な力は一体何なのでしょう。私に何が起きているのでしょうか。私はそれを知らなければならぬと思いました。

気が付いてみると、私はモルモン経

をくまなく調べるために余暇をすべて費やしていました。そしてひとつのことを発見しました。それはモロナイという昔の予言者の約束で、この書物が真実のものであると示してくださるように神に願えば、私でも知ることができるという大胆な宣言でした。ひとりになったある日、私は自分の造り主の前に頭を垂れました。手にはモルモン経を持って、私をその書物に引き付けるものは一体何なのか天父に尋ねました。祈りがまだ終わらないうちに、自分の過去の習慣や敵意が次から次へと思い出されてきました。私は赦しを請い求めました。そのときまで私は自分の惨めな状態に気付いていませんでした。

それから何日かは同じような状態でした。私はモルモン経の研究に没頭したいという抗し難い望みを感じながら日々を過ごしました。やがて私の心内にあることが起こりました。それは10月の総大会の前の木曜日の夜でした。仕事からの帰り道、私はそれまでに1度も経験したことのない特別な思いが胸の内に高まるのを感じたのです。それをどう理解したらよいかかわからず、その思いは少しずつ強くなってきました。本当にすばらしい気持ちでした。「もし天国でこういう気持ち味が味わえるのなら、若い先短い99歳の老人だったらよかったのに」と思ったのを覚えています。

それから証を得ました。今まで私を



「念入りに刈ってください。ほくはこれから教会に入るんですから。」私がそう言うと、理容師はぼかんと口を開けました。そしてこう尋ねました。「どちらの教会ですか。」

悩ましてきた、宣教師の持っていたあの確信です。私は確かに知りました。ジョセフ・スミスは天父と御子にまみえたのです。本当にジョセフ・スミスは天使の訪れを受けました。私は知りました。そうです。確かに私は知りました。

それに続く1週間はおもしろいものでした。私は理髪店へ急ぎました。「念入りに刈ってください。ほくはこれから教会に入るんですから。」私がそう言うと、あの理容師はぼかんと口を開けて、しばらく何も言うことができませんでした。それから平静を取り戻すと、まったく大まじめにこう尋ねました。「どちらの教会ですか。」

それから私は彼と話をしました。すると、バプテスマを受けた後にはその人が私の最初の監督になることがわかりました。さらに私たちが共に驚きかつ喜んだことには、私たちは以前に1度会ったことがあるのです。それは2年前、ステーク部宣教師として伝道していた彼が戸口の階段の所に立っているのに、ある失礼な人が目の前でドアを閉めてしまったときのことでした。

□

*ジュリー・マッキーン兄弟：ユタ州ワシントンテレスステーク部、ステーク部宣教師。オグデン市在住。

トンガの 聖徒たち

——信仰の遺産



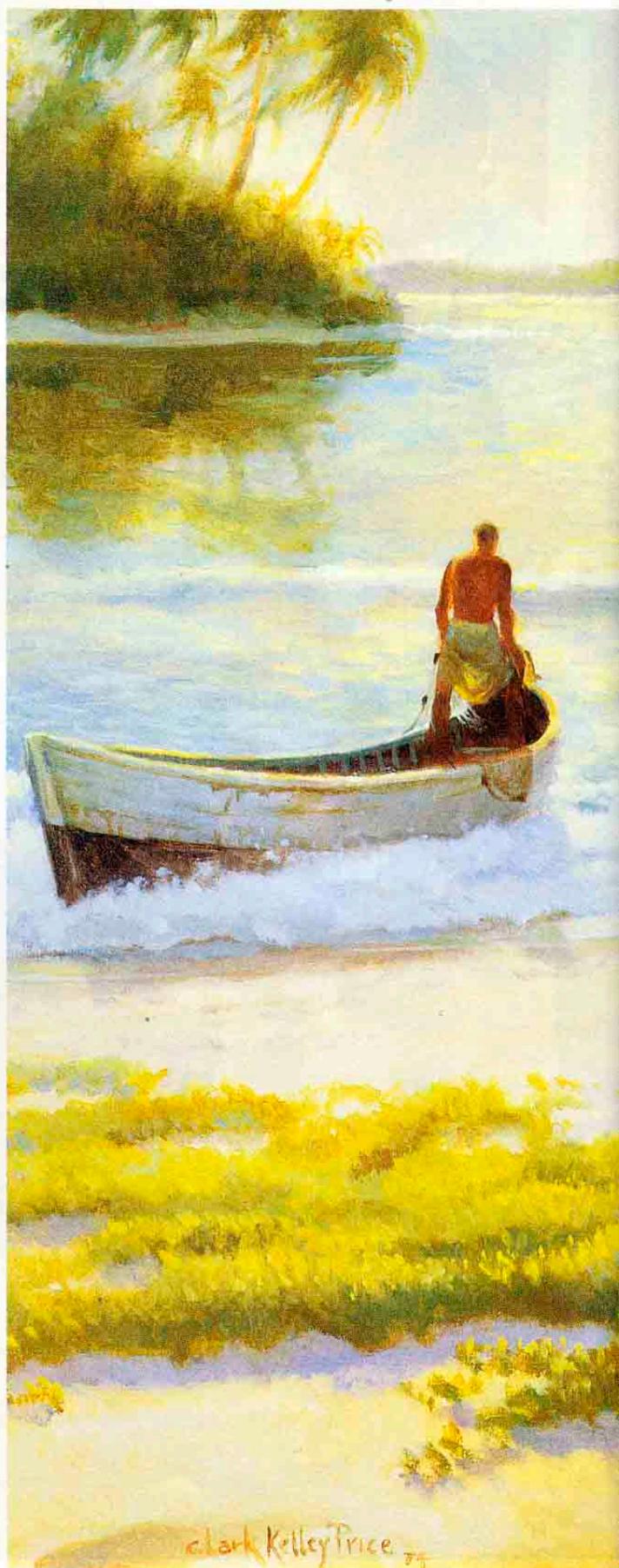
エリック・B・シャムウェイ

ト
ンガの初期の末日聖徒の宣教師たちが生存していれば、1991年8月に迎えるトンガの伝道100周年記念を、まさに奇跡と呼ぶでしょう。ブリガム・ス্মート長老とアルバ・バトラー長老によってサモア伝道部が開設されてからわずか5年9カ月後の1897年に、悲しくもトンガ地域は閉鎖されることになったからです。

1891年から1897年の間に、およそ20人の宣教師がこのフレンドリー諸島(トンガの別称)で働きましたが、15人

上——1891年7月、トンガでの最初の日に、ス্মート長老とバトラー長老は、国王ジョージ1世を訪問し、国内で伝道する許可を得た。

右——今日、地元の長老たちの中には、ワイシャツ、ネクタイと一緒に、伝統的なツベヌとタオバラを着る人もいます。





ILLUSTRATED BY CLARK KELLEY PRICE



のバプテスマがあっただけでした。昔のプロテスタントの宣教師たちの努力のおかげで、トンガには根強いキリスト教の伝統が存在してはいたのですが(『補足記事』参照)、王とその宗教に対する義務感や、人々を厳しく見張る村の牧師たちの目もあって、多くはアメリカ人の末日聖徒から遠ざかっていました。

1907年に伝道が再開され、初めはゆっくりと、ついには急速に発展を遂げ力強い聖徒の群れとなるに至りました。3万を超える教会員、10のステーク部と90の教会堂、12の中学校、ふたつの高等学校、そして神殿——これらは、今日のトンガやトンガの聖徒たちの住むあらゆる場所で起こる奇跡を、はっきりと表わしています。

今日のトンガにおいて、教会が会員数だけでなく、活動や、教会員たちの熱心さにおいても、これほどまで顕著な存在になっているのはなぜでしょう。はかばかしい発展も見られず、伝道がむずかしいトンガの地を、世界の中でも目立って改宗者が増え続ける地域に変えたものは何なのでしょう。

その答えは、会員たち自身のこれまでの生活と、そこに見られる会員の生きた証の中にあります。トンガにおける教会の成長の基がその中に示されているのです。それは宗教への深い信仰、主のみ業を成し遂げるために厳しい自然の力に立ち向かう信仰、個人の習慣や先入観を克服しようとする信仰、そして主が祈りの答えを与えてくださる、という信仰です。

「赤ん坊を投げろ！」

主の用向きのために厳しい自然の力に立ち向かうという事は、トンガの人々が信仰について語る際の共通し

たテーマです。つらい旅の途中で、あるいは海上で嵐に遭いながら、トンガの聖徒たちは神を信頼することによって祝福され、並々ならぬことを成し遂げる勇気を与えられてきました。

ハワイのライエ市にあるポリネシア文化センターで働くセラ・フェインガ姉妹は、1965年に夫のハウंगा兄弟が、トンガの島々に教会を建てるようにという宣教師としての召しを受け入れたときのことを覚えています。高熱に苦しんでいた5カ月になる娘を連れてフェインガ家族は、荒波の海に囲まれ、ごつごつとした岸壁の多いフォトゥーハという孤島へ旅立ちました。

フォトゥーハへ向かう旅行者たちは、小船からカヌーに移り、そこからさらに、深い海おもての面に突き出している岩に向かって泳いで行きました。泳げない人たちは、カヌーから放り投げられる荷物を受け取ろうと立っている島の人たちの腕に飛びつかなくてはなりません。そのような上陸の仕方はとても危険で、ちょうど岩の高さまで上がる波にタイミングよく合わせないと、すぐに波は4メートルから6メートルも下がってしまうのです。フェインガ姉妹は、そんな旅には文字どおり信仰のジャンプが必要だと思いました。

「私たちが出発した朝、赤ちゃんの熱はまだ高く、小さな膿疱のうほうが頭からつま先まで体中にできていました。はしかにかかっていたのです。しかしいくら嘆願しても、夫は決心を変えようとはしません。私は小さな子供を毛布にくるんで、フォトゥーハへ向かう小さな船に乗り込んだのです。

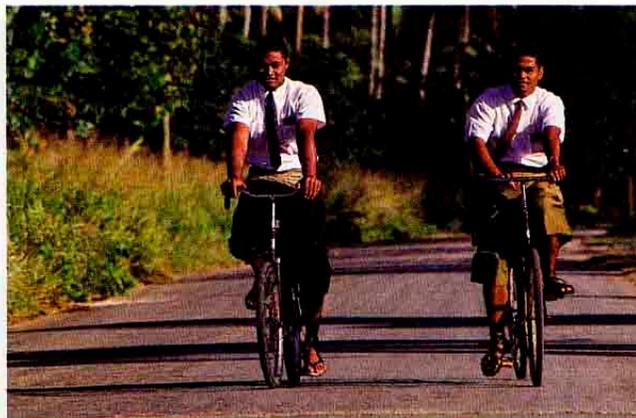
島がはるかかなたに見えてくるにつれ、恐ろしい絶壁と岩だらけの海岸が、不気味に姿を現わしました。巨大な波が私たちを取り囲みました。私たちを出迎え荷物を受け取るために、島の人たちがもう何人も突き出た岩の

左端——1983年8月に献堂された
トンガのヌクアロ八神殿。

左——セラ・フェインガ姉妹と夫のハウンガ兄弟は
伝道の召しを受け、一瞬とはいえ子供を手放すつらい経
験をしなければならなかった。

(『赤ん坊を投げろ!』参照)

右——この若者たちのように、同じトンガ人に
福音を伝える地元の宣教師はますます増えている。



PHOTOGRAPH BY WILLIAM FLOYD HOLDMAN

所に集まって来ていました。

迎いのカヌーが来ました。張り出しのある小さなカヌーを島の若い学校の先生がこいでいました。岩に近づくと彼は言いました。『これから波を数えます。岩の高さまで届くような大きいのが来たら、岩に飛び移るか、あそこに立っている人たちに荷物を投げるんですよ。』

雨が降る中、この危険な上陸を目前にして、私は恐ろしさのあまりぼう然としてしまいました。するとその先生が、夫に向かって叫びました。『赤ん坊が先です。まず赤ん坊に対する指示が出ますよ。』

そしてすぐ岩の上から夫に指図がありました。『その赤ん坊を抱いている人! 毛布を取って服を全部脱がせなさい。』

『何ですって!』私は叫びました。『この子ははしかにかかっているのよ。服を脱がせるなんてとんでもないわ。』

先生は厳しくハウンガに言いました。『全部脱がせなくてははいけません。岸まで赤ん坊を投げなくてはならないんです。毛布や着物からすり抜けて、岩の上や海の中に赤ん坊を落とすようなことがあっては大変ですから。』

再び岩の上から命令が来ました。『早くしろ。赤ん坊の着物を脱がせるんだ!』でもかわいそうに夫にはできませんでした。多分私と同じで恐ろしさでいっぱいだったのでしょう。

若い先生は、ハウンガの腕から赤ちゃんをぐいと奪い取ったかと思うと、次の瞬間には、小さなおむつを残して服を全部脱がせてしまいました。波がうねってカヌーを押し上げましたが、高さは十分ではありませんでした。波が引くにつれ、私たちは下がっていきます。私たちは再び波の背に乗って押し上げられましたが、まだ高さは十分ではありませんでした。

次の波が来たとき、命令が聞こえました。『赤ん坊を投げろ!』私は悲鳴を上げ、お腹を押さえました。目を開けていられませんでした。次の瞬間、夫の言葉が耳に入りました。『もう大丈夫、赤ん坊は無事だ。』

しかし、フェインガ姉妹には感謝している暇などありませんでした。次は自分の番だったのです。恐ろしさのあまり心は乱れ、4回もチャンスを逃してしまいました。岩に立っていた人はついに、「おい、赤ん坊にまた会いたくないのか」と叫びました。「主よ、どうか愛をお示してください。そして赤ちゃんのためにも、私をお助けください」と祈りながら、岸に飛びつき、彼女は助かったのです。

タウコロ・ランギ兄弟も、ハアパイ島で妻のテマリシー姉妹と伝道していたときに、強い信仰が要求される旅を経験しました。伝道期間を延長し、フェレメーアでランギ兄弟が支部長を務めるように言われ、ふたりはそこで教会から離れていた会員たちと共に働くことになったのです。

1958年のある土曜日のこと、ランギ兄弟と5歳になる息子のタニエラは、バンガイで地方部の集会を終えた後、フェレメーアでの日曜日の集会に戻ることができなくなってしまいました。潮が引いていたので、ウオレバ島まではサンゴ礁の上を渡ることができたのですが、友人のシオネ・モアラ・ハビリが、フェレメーアまで海を渡ろうなんて考えるだけでも危険なことだ、と言って止めたのです。しかし、ランギ兄弟の心の中にはひとつのことしかありませんでした。それは、帰ってフェレメーアでの日曜日の集会を管理し、ふたり目の子供を宿して8カ月になる身重の妻に会うことでした。

「私は海を渡ろうと決心しました。主の用向きのために来ているのだから、必ず守られると思ったのです。シ



PHOTOGRAPHY ON THIS PAGE BY 'ISILELI TUPOU KONGAIKA

オネ・モアラのカヌーの横にひざまずいて、一緒に天のお父様に祝福をお願いしてくれ、と息子のタニエラに言いました。私たちが祈る間も、大きな波が岸に押し寄せては砕けていました。

私は幼いタニエラを前に座らせて海に舟をこぎ出しました。強い信仰はあったのですが、トンガでも最も荒い海の上をスムーズに行けるとは思っていませんでした。ましてや水面すれすれを行くトンガのカヌーに乗ってはなおさらのことです。

ところが私たちはまるで穏やかな水面を滑っていくかのようでした。ぬれることもなく、水をかい出す必要もありませんでした。打ち寄せる波を簡単に乗り越えて陸に上がると、私たちを見て驚いた人々の質問責めに会いました。この3日間海は大変荒れていて、舟でフェレメーアを出た人はだれもいなかったのです。私は、確かに主が祝福してくださったことに感謝しました。」

自然の力から主が守ってくださるという信仰は自分たちを救うばかりではなく、テビタ・タイマーニ兄弟のように、助けようとしている相手をも救ってくれるというのがトンガの聖徒たちの証です。タイマーニ兄弟は大波と激しい嵐の中を15馬力エンジンのボートに乗って、病気の女性をハフェーバの病院まで連れて行ったときのことを語ってくれました。彼は気付かなかったのですが、波に打たれてボートのガソリントankがエンジンにつながる管と一緒に外れてしまっていたのです。

「病人を乗せてエンジンを掛けたときに、ガソリントankと管の外れているのに気付かなかったなんて信じられません。それでもボートのエンジンは掛かり、荒波の中を止まる気配すら見せずに走り続けて海を渡ることができたのです。もし止まってしまったら、外洋に漂い出してしまうか、どこか暗礁にぶち当たってしまうかして、

取り返しのつかないことになっていたでしょう。

「ハフェーバに無事着いたとき初めて、ガソリントankがなかったこと、小さな船外エンジンを動かすガソリンもなしにこの荒海を渡ってきたことに気が付いたのです。これはまさに主に仕えるときには守られる、という実例です。」

信仰によって生活を変える

トンガの聖徒たちの信仰の遺産は、もっと目立たない奇跡、習慣や偏った考えを克服し、信仰によって自分を変える奇跡などにも及んでいます。

ルーサー・パラウニ・コンガイーカ姉妹は、夫のビリアミ兄弟はやさしくて気さくな人で、それに対して自分は以前は強情で理屈っぽく、押しつけがましい尊大な態度だったと言っています。

1946年に夫婦で伝道していたとき、コンガイーカ姉妹はある夢を見て深い影響を受けました。その結果、自分の怒りっぽさや、がみがみ言う態度は夫に対しても、ふたりの伝道の業に対しても障害になっていることに気付いたのです。

「夢の中で、トンガの伝道部長、エミール・C・ダン長老が私に、主がみずから出席される特別な大会に、ダン長老の妻や娘と同行してほしいと言ったのです。私は喜んで行きました。その場所に着いたとき、扉のような形をした巨大な石が見えました。扉の後ろにはイエスキリストがいて、一人一人と個人面接をするのだ、ということを知られました。

私の番が来ると、喜び、自信を持って前に進み出しましたが、救い主は厳しい表情で私をにらむと、こう言われ

左端——ルイーサ・パラウニ・コンガイカ姉妹の生活は夢によって深い影響を受けた。

(『信仰によって生活を変える』参照)

左——危険な舟旅を終えて、燃料なしに走っていたことを知ると、テビタ・タイマーニ兄弟は主の助けに気付いた。
右——ハーパイ地区の扶助協会の姉妹たち。1935年。



たのです。『おお、口の悪い女よ。あなたには会いたくない。あなたは夫に対してなんと醜い言葉を吐くことか。ほかにどんなすばらしい資質を持っていたとしても、絶えない小言とあざけりの言葉は不愉快である。ここから出て行きなさい。』

私は泣きわめき嘆願しましたが、ついに悲しみの底にひとり残されました。すすり泣いているところで目を覚ますと、すぐに夫に赦しを請いました。彼のやさしい性格をよいことに、私はそれまでとても意地悪で、口やかましくしていたのです。でもそのときは心から赦しを請いました。

以来私はきょうのこの日まで夫を尊敬し、愛し、前向きで、役に立とうと努力する、まったく違った人間になりました。」

シオーネ・オレリー・ピウターウ・ツポウ兄弟もまた、自分自身の霊的な旅は、地理上の旅と同様に信仰が必要だったと悟りました。ツポウ兄弟は、彼が「真の頑固者」と呼ぶ両親の下に教会で育てられましたが、親の死後、別のキリスト教会に活発に集うようになり、道からそれていきました。それから46年たった1984年、彼は村で反モルモン映画が上映されるということを、耳にしました。

「上映の当日、コミュニティークラブに座り、映画を見ようと列を作っている人々の姿を眺めていました。

あんなに良い教会が公の場で攻撃的になっていることに不快感と残念さを感じました。

がっかりして腰を下ろしていると突然、死んでからもう長いことたつ父と母が前にいるのを感じました。私は抑えきれず急に泣き出し、立ち上がって家に帰ってしまったので、クラブのほかの会員たちは驚いていました。

その晩は惨めな気持ちで眠ることもできず、次の朝に

は気分が悪くなるばかりでした。自分を取り囲む暗やみから逃れるために、神様の助けが必要だと感じ、天父に助けを求めて断食を始めました。

断食を終えたとき、言葉に表わせない^{あんど}安堵感と喜びを感じました。天父は、神様の教会、私の、そして父母の教会に戻るように教え、勇気を与えてくださったのでした。

日曜日、私は一番上等の服を着て教会へ出掛けました。それまで集っていた教会の会員たちは、私が去って行くのを見て憤慨していましたが、末日聖徒の会員たちも、私を見てびっくりしていました。『再改宗』してから私の家族は実に多くの祝福をいただきました。教会についてあんなにも真剣に考えさせられ、死んだ両親をあれほど身近に感じ、断食と祈りによって真理の証を得ようとしたあの不思議な経験を、私はしばしば思い出します。」

主に備えあり

トンガの人々が受け継いでいる信仰の遺産でもうひとつの大切なことは、物質的な援助にしる、緊急時の救助にしる、主がそれらを与えてくださるという信仰です。

サイーア・パオング兄弟は、1964年に伝道していたとき、遠く離れたニウアトプタブ島という島に住む6人の宣教師を管理していました。彼らは次の食事をどうやって手に入れたらいいかわからないこともしばしばでした。ある日、断食をしながらファレハーウという所で家々を回り、教えを伝えていたのですが、断食を解くための食べ物がありませんでした。宣教師たちが家を出ると、パオング長老ははっきりと強い気持ちを感じました。

「『島の裏側にある海岸へ宣教師たちを連れて行きなさい

タウコロ・ランギ兄弟と息子のタニエラは嵐で荒れ狂う海の上を自分の島へ無事に帰れるように、主の守りを求めた。巨大な波が岸に打ち寄せる中で、彼らは祈りによって平安と力を見いだした。

い』とだれかが言っているようでした。私は同僚にもりを持って行くように言い、みんなでニウアトプタブ島の岩の多い海岸へ向かいました。

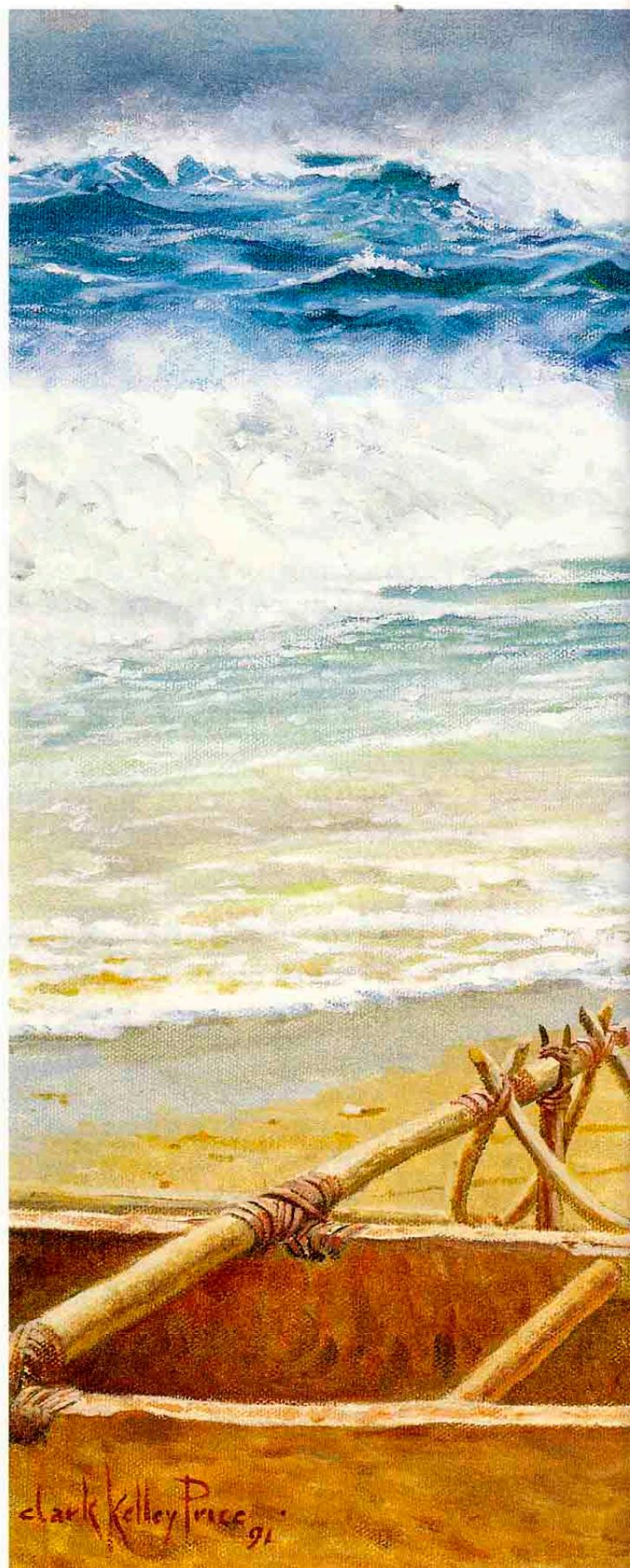
残念なことに、私たちが着いたときにはもう潮が満ちていて、魚をもりで突いて取ることなど、とてもできませんでした。私たちはがっかりして座り込んでしまいましたが、フォヌーア長老だけは、海岸線に沿ってぶらぶら歩いていました。

突然フォヌーア長老は私たちに向かって、こっちへ来てみると叫びました。あわてて行ってみると、すばらしい光景が目に飛び込んできました。大きく太った深海魚のブダイが、驚いたことに泳いで岸边まで来ていたのです。長さ1メートル、厚み30センチほどもあるもので、すばらしいごちそうになりました。

この魚は私たちのために用意されたものでした。天父は、私たちが遠い小さな島にいてもお忘れにならず、おなかをすかせた若い宣教師たちを愛してくださっていたのです。」

サリーシ・ハビーリ兄弟の熱心な祈りは、ナナウ病院の手術室で答えられました。ハビーリ兄弟と妻のセルーは、1年前の1977年に教会に入り、神殿に行く準備をしていました。手術中の経験は、神殿に参入する前に通過しなければならない信仰の試しだったのです。

不便なことの多い島の病院で、ふたりの外科医と麻酔専門医のハビーリ兄弟はマーフィ・バカロアという老紳士の手術を始めました。マーフィさんの脈がもうありません、と耳元でささやく看護婦の言葉に、ハビーリ兄弟は患者が手術台の上で死亡したことを知りました。ろうばいしながら、何が間違っていたのかを発見しようと、あらゆるものをチェックしました。そしてついに祈り始めたのです。







PHOTOGRAPHY ON THIS PAGE BY WILLIAM FLOYD HOLDMAN

「必死でしたが、初めはうわべだけの祈りでした。医学的にも、マーフィさんは死亡していたのです。それでも限られた知識と設備の中で、あらゆるものを駆使して何とか生き返らせようとしていました。

2回、3回と祈り続けました。罪悪感と疑いが私の心を支配していました。マーフィさんの脈を回復してくれるよう、天父に嘆願してはいましたが、医学的にも死んでいることはあまりにも確かでしたし、自分が死なせたのだ、という恐怖感があまりにも強かったのです。しかし、それでも私は祈り続けました。マーフィさんの命は、私の祈りの誠実さと、この重大な危機が神殿訪問直前になっての信仰の試しであると信じる気持ちとにかかっているのだと、そのとき感じたからです。

マーフィさんの心臓が止まってから、18分経過しました。私はさらに熱心に願ひ続けました。もしこの人を生き返らせてくださるなら人生のすべてを主に捧げると約束しながら。

最後にもう1度頭を下げ、それまで以上に熱心に集中して祈り始めました。主に話している間、疑いのかげらさえもすべて捨て去り、目を開けたときにはマーフィさんの心臓が動き始めるという確かな気持ちになるまで祈り続けました。

奇跡的にもそのとおりになったのです。25分間まったく動かなかったマーフィさんの心臓は再び鼓動し始めました。私は喜びと驚きで胸がいっぱいになりました。次の朝、医師たちと看護婦に起こったことを話しました。病棟を回りながら、マーフィさんの妻がベッドの端に座っているのを見て感激しました。マーフィさんは、意識もはっきりし、話すこともでき、そして確かに生きていたのです。」

信仰の遺産

エノク・ラペル・マンウェーリング兄弟が1957年にトンガの建築宣教師として働いていたとき、教会堂を建てるために何人かの宣教師たちを連れてウイーハ島へ行きました。するとバイカトーという名前の小さなおばあさんが、すでに100歳を超えているだろうというのに、建築を手伝いたいと言ってきたのです。宣教師たちは、重いレンガを運んだりバケツを持ち上げたりはしないように彼女を説得しようとしたのですが、彼女は手伝いをやめようとはしません。

建築が進んでいくうちに、何人かのトンガの建築宣教師たちがマンウェーリング兄弟のところへやって来て、設計のことについてバイカトーさんに話したかどうか尋ねました。話していないと答えると、教会がどんな形になるのかバイカトーさんはもうすでに知っている、と聞かされて驚いてしまいました。

「彼女は、教室がどこで、説教壇がどこで、でき上がったら礼拝堂はどんなふうになるかなど、みんなに話して回っていると言うのです。本当に驚きでした。

この建築プログラムが南太平洋諸島で始まる20年前に、彼女はトンガを訪問していたジョージ・アルバート・スミス長老から祝福を受けていたということが、通訳を通してわかりました。その祝福の中でスミス長老は、彼女がもし忠実ならば、島に美しい教会堂が建つのを生るまで生きるでしょうと言ひ、その言葉を聞きながら彼女ははっきりとその建物を見ることができたのだそうです。」

確かに、100年前にトンガに最初に着いた末日聖徒の宣教師たちも、それぞれに将来への展望を心に思い描いていたに違いありません。今年の100年祭で祝うあの地

左端——トンガの典型的な末日聖徒の集会所。
左——初期の教会の宣教師たちは、福音を教える準備をする今日の宣教師たちを見て喜ぶことだろう。
右——J・E・ガイルズ、エマ・ガイルズ夫妻（前列）、4人の子供たちと3人の宣教師たち（後列）と共に。1895年。



道な活動によって、こうして活気に満ち、日に日に数を増す活気に満ちた教会員のために道が備えられたのです。その成長を象徴するのが、ヌクアロハにある美しい神殿です。それはまさに、トンガの聖徒たちの生活に様々な形で表われている信仰のふさわしい記念碑と言えるでしょう。□

*エリク・B・シャムウェイ兄弟——ブリガム・ヤング大学ハワイ校の教養学部副学部長。この物語は、大学付属のポリネシア研究所がトンガの伝道100周年を記念して出版した、彼の著書『トンガの聖徒たち——信仰の遺産』から抜粋したものである。

（補足記事）

トンガの遺産となったキリスト教の土台

今日、トンガにおける末日聖徒イエス・キリスト教会の発展と成長を祝う際に必ず忘れてはならないのは、トンガ諸島にキリスト教をもたらす助けをした人々です。回復については何も知らない人々でしたが、キリスト教の宣教師たち、特にメソジスト派の前身であるウェスレー派の宣教師たちは、「カウ・ファカメロメロ（先立って道を備える者）」でした。彼らは祈りを教え、聖書を翻訳し、トンガの人々のために学校や教会を組織したのでした。

プロテスタントの白人宣教師たちは、トンガの宣教師と共に働きましたが、トンガの人々が酋長しゅうちやうに対して抱

いていた忠誠心に入り込むことは困難でした。ところが、タウファ・アハウ酋長が1831年にクリスチャンとして洗礼を受け、土着の宗教に反対し始めてから、大きな変化が起きました。

タウファ・アハウは、ジョージという洗礼名を名乗り、完全に読み書きができるようになって、ウェスレー派の教会で常任説教師として働きました。堂々とした威厳を持ち教養もあるこの人は、教会の中で強い原動力となりました。1845年にトゥイ・カノクポル、つまり全トンガの王になると、非キリスト教国との同盟関係を極端に縮小して、危険をはらんだ影響力を排除しました。

ウェスレー教会は国教として受け入れられていましたが、1885年1月4日にジョージ王は独自のトンガ自由教会を設立しました。形式や教義の上では、ウェスレー教会と変わりませんでした。独立した自主管理体制を施行しました。この分離による社会的、宗教的、政治的余波によって混乱が起こり、宗教的不満や怒りは絶えませんでした。

こうした状況の中で、ふたりの最初の末日聖徒の長老であるブリガム・スムート長老と、アルバ・バトラー長老が1891年7月15日に、蒸気船ワイヌイ号に乗ってトンガに到着したのです。トンガの人々は当時、「メリノ・モー・フェオオファーニ（平和と調和）」を強く望んでいたために、社会全体が分裂、変化、新しい宗教といったものを受け入れにくい状況にありました。

そのときの宗教紛争によって、伝道部は閉鎖されることになりましたが、末日聖徒たちは、問題が解決したらまた戻ってくるつもりでいました。後に、「先立って道を備える者」たちの働きを土台として、キリストについてすでに知っている人々を、完全なる福音に導くことになるのです。□

いつまでも若々しく

スティーブン・K・クリスチャンセン

彼は力強く、健康で、生氣にあふれ、今でも毎日仕事に出掛けています。福音を愛する、疲れを知らぬ宣教師でもあります。年齢はなんと91歳です。ラザロ・ルーシオ・リベラ・デル・カルピオ・マロキン兄弟の例を見ると、人はどんなに高齢になっても、年齢のためにイエス・キリストの福音が実践できなくなるようなことは決してない、とわかります。

リベラ兄弟は、1899年12月17日にペルーのアレキパで生まれました。彼は後にクスコに定住しました。クスコはリマの南東約600キロにある都市で、アンデス山脈の中にあります。その地で彼は宣教師と出会いました。リベラ兄弟の改宗とそれに続く教会への献身の話からは、ペルーにおける教会の開拓者の特質である信仰と良い行ないをうかがい知ることができます。

リベラ兄弟はこう語っています。「ジョセフ・スミスやほかの多くの人と同じように、私も様々な宗教の中に真理を探してみましたが、どの宗派にも加わりませんでした。」やっと求めていた真理に出会ったのは、67歳のときでした。

リベラ兄弟は次のように述べています。「その日は日曜日で、私は店で忙しく働いていました。息子のエクターが入って来て、こう言いました。『お父さん、今までいろんな教会を調べてみたいだけ、町に新しい教会がひとつできたよ。』私は息子に、『関係ないね。みんな同じさ』と答えました。するとエクターはこう言うのです。『そんなこと言わないで。あれがお父さんの探していた教会かもしれないよ。』

おそらく私が教会に足を運ぶように、主のみたまがエクターと共にあったのでしょう。私は帽子をかぶり、エクターと一緒に集会場に出掛けました。そこで私はふた

りの長老に会いました。あいさつをすると、大変歓迎してくれました。集会が始まったのは朝の9時半か10時ごろでしたが、私はそこに昼までいました。最初は、耳に入ってくる話がほとんどわかりませんでした。子供のころから慣れ親しんだ宗教上の習慣に染まっていたためでした。しかしそれから1週間後、2度目に訪れたとき、私はイエス・キリストの真実の教会を見いだしたことが、はっきりとわかりました。長老たちが知恵の言葉について語ったとき、特にそう感じました。」

それから24年を経た今でも、リベラ兄弟は自分が健康と活力に恵まれているおもな理由は、知恵の言葉を実践しているからであると述べています。

彼はこう語っています。「バプテスマの後で、私は自分の中で何かが変わったのを感じました。それがこんなに長生きできた秘訣です。」

息子のエクターは、次のように語っています。「私の記憶している限り、父が知恵の言葉を破るのを見たことは、ただの1度もありません。父が強健で主から祝福を受けているのは、きっとそのためだと思います。」

ペルーでの伝道活動は1956年に始まりましたが、リベラ兄弟が1967年に出会った宣教師は、クスコに赴任した最初の宣教師でした。そしてリベラ兄弟はクスコの初期の改宗者のひとりとなりました。初めて宣教師と会って以来、リベラ兄弟はいつも伝道活動を愛していました。伝道について語るときの彼は、熱意にあふれています。

リベラ兄弟は次のように言っています。「私は末日聖徒です。ですから、どこへ行っても福音について語るようにしています。時間を無駄にしたくないのです。友達にはこう言います。『もしあなたが自分の生活を改善し、問題を解決したいと思うなら、私は答えを知っています。』



末日聖徒イエス・キリスト教会に来てください。集会に出席してください。そうすれば、宣教師があなたに教え、バプテスマのために備えてくれます。そして、あなたは幸せになれるでしょう。』私は福音について語るのがいやになったことは1度もありません。1日中福音について語ることさえ、できるのではないかと思うほどです。」

彼は伝道活動についての話をするだけでなく、実際に伝道しています。クスコで自営している店には、広告が張り出されており、宣教師の訪問を希望する客はそれに名前を記入する仕組みになっています。また家族や友達が教会に加わり、証を築けるようにも働き掛けています。

「私はペテロのように人をすなだる漁師(マタイ4:19参照)になれて幸せです」と彼は言います。

リベラ兄弟のクスコでの生活は、南アメリカの新旧両世界の独特な混合文化を反映しています。彼はフランシスコ・ピサロ(16世紀のスペイン人で、ペルーの征服者)と共に新世界にやって来たスペイン人のリーダー、ニコラス・デ・リベラ・ビエホの直系の子孫です。他方、クスコはスペイン人が到来するはるか昔、インカ帝国の首都があった場所です。

現在リベラ兄弟は、伝統の技法を活用して美しい宝石類を作っています。その技術と細部にまでわたるこまやかさが、国の内外の映画スターをはじめ世界中の顧客を魅了しています。彼はほかの場所で仕事をするよう招かれたこともありました。クスコにとどまりました。クスコで自分が必要とされていると感じたからでした。

バプテスマを受けて間もなく、リベラ兄弟はクスコ支部の支部長に召されました。その召しを通して彼は主のみ手に使われ、会員たちの生活に祝福をもたらしました。その例のひとつを、彼は次のように回想しています。「バプテスマを受けたばかりのパブロ・コンチャー兄弟は技術者でしたが、失業中でした。彼は職を探しにリマに行くことにしました。出発の前に私はコンチャー兄弟にこう言いました。『あなたがリマに滞在する期間は15日を超えることはないでしょう。そしてここに戻るころには、ひとつどころか、ふたつの仕事を得ているでしょう。』15日後にコンチャー兄弟が家に帰ったときには、リマの大学の地質学の教授の職と、政府機関に属する土地鉱山事務所の所長という肩書きがあったのです。」

リベラ兄弟は、言うべき言葉を主が自分に授けてくださると信じています。「主は教会員に導きを与えて、みこころを人々に語れるようにしてくださいませ。」

エクター・リベラ兄弟は、こう語っています。「父の信仰はいつも霊的な力に満ちたものでした。たとえ天地が引つ繰り返しても、父は日曜日にはやはり教会に集うでしょう。私は、父が教会に入って以来、自分の召しを果たすために忙しく働いている姿を見てきました。」リベラ兄弟は大祭司で、現在ステーキ部の家族歴史ディレクターとして働いています。

リベラ兄弟のもうひとつの特質は、聖典を愛していることです。彼はあふれる活力とエネルギーの源は、知恵の言葉と、聖典の中にあるとして、次のように語っています。「私は、毎日聖典を読むようにしています。長年教会員であっても、学ぶべきことがまだまだたくさんあります。私はイエス・キリストの福音を身にまとうために学び続けます。毎日少しずつでも向上したいのです。」

エクター兄弟は次のように述べています。「私は父がいつも聖典を読んでいる姿を目にしてみました。朝、目が覚めると、父はモルモン経や教会の機関誌、そのほかの教会の書物を読んでいます。また私が床に就くときも、父が自分の部屋で同様の書物を読んでいるのを見かけます。その姿を見るたびに私は驚嘆します。父が聖典を非常に愛しているのを見て、私自身もモルモン経を読み始めました。」

聖典のおかげで、リベラ兄弟は外面的な行ないがそうであるように、内面的にも若々しい状態を保っています。彼の大好きな聖句のひとつがいつもこう告げています。「忘れずに青年の時智恵を得よ。青年の時から神の命令を守ることを習慣とせよ。」(アルマ37:35)

彼はこう言います。「なんと美しい言葉ではありませんか。この言葉は、私たちが義の道をどのように進むべきかを示しています。」

勤勉さと強い意欲がリベラ兄弟を支えているのですが、彼はそれでもなお自分の受けている祝福の真の源を悟っています。彼はこう言っています。「多くの人たちは、私が大変高齢であることに感心します。しかし、私を生かしてくださっているのは神です。神がおられなければ、私たちは無に等しいのです。」

リベラ兄弟は福音に従った生活をどのように感じているのでしょうか。

「私は、大変幸せです。もし世界中の金をすべて手に入れたとしても、これ以上幸せにはなれないでしょう。神に仕え、人に仕えること、人生はまったくそれに尽きます。福音は麗しいものです。」□

什分の一の祝福

アジア地域会長会会長
マーリン・R・リバート



あなたがたすべての国民は、わたしの物を盗んでいるからである。わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉くらに携もてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる。」(マラキ3：8-10)

マラキの非難に見られる厳しい口調も、正直に十分の一を納めて主を試みる者に与えられた輝かしい約束によって、いくらか和らいで感じられます。天の窓は開かれ、「あふるる恵み」が惜しみなく注がれるでしょう。その祝福の特質については、少なくともその一部がこれに続く次の節に記されています。

「わたしは食い滅ぼす者を、あなたがたのためにおさえて、あなたがたの地の産物を、滅ぼさないようにしよう。また、あなたがたのぶどうの木が、その熟する前に、その実を畑に落すことのないようにしようと、万軍の主は言われる。」(マラキ3：11)

この聖句は直接的にはぶどう園や果樹園の収穫について言ったものですが、十分の一を納める人は、どのような職業に就いてしようと、正直であれば仕事が成功し、滅亡を免れる、という点

についても暗に述べています。

中には、昔のイスラエル人が言ったように、高ぶる者や「悪を行う者」たちも含めて、十分の一を納めていない人でも、「栄える」ではないか、と主張する人もいるでしょう。彼らは見たところうまくやっているし、その悪い行ないによって神の怒りを引き起こしてさえ、「罰せられない」でいます。ところが聖書を読み進んでいけば、それで終わりではないことがわかります。

「そのとき、主を恐れる者は互に語った。主は耳を傾けてこれを聞かれた。そして主を恐れる者、およびその名を心に留めている者のために、主の前に一つの覚え書おぼえがきがしるされた。」(マラキ3：16)

主を愛し、互いに助け合って福音を実践する忠実な会員たちに、マラキは、主が彼らの話に耳を傾けておられる点に注意を促しています。主は忠実な聖徒たちの名を記した「覚え書」を保管しておられます。忠実な聖徒たちについて主はこう言われました。

「万軍の主は言われる、彼らはわたしが手を下して事を行う日に、わたしの者となり、わたしの宝となる。また人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ。その時あなたがたは、再び義人と悪人、神に仕える者と、仕えない者との区別を知るようになる。」(マラキ3：17-18)

主はこの中で、正直に十分の一を納める会員たちを宝にたとえておられます。実にそのような人々は主のみ前で重んじられ、悪人を待ち構える結末から逃れることができます。十分の一を納めていない人々の多くが、現在は「栄え」て「罰せられ」ていないように見えますが、上に記されているような日を迎えて初めて、彼らが有利な立場にあるのかどうかを私たちは判断すべきなのです。福音を実践し、それによ

最近、韓国の光州クワンジュで開かれた地区大会の席上、ゴードン・B・ヒンクレー副管長は大勢の会員と求道者を前にして、福音に従った生活を送るのはきわめて簡単なことであると語られました。ヒンクレー副管長は基本的に必要な事柄を以下のように要約されました。それは、

1. 朝、晩にひざまずいて祈り、
2. 十分の一を納め、
3. 日々何か親切な行ないをして、弱っている人々を力付け、
4. 毎日聖典を読み、
5. 自分が召された責任を果たすことです。

十分の一の説明の中で、ヒンクレー副管長はマラキ3章の中に述べられた、この原則のすばらしい約束について言及し、このようなすばらしい約束は、近代の聖典にもう一度述べられているだけでほかには見られないことに、私たちの注意を喚起されました。ヒンクレー副管長がなぜ十分の一を納めるといふ義務をこれほど強調されたのか考えてみましょう。

イスラエルの古代の予言者マラキは、神の律法を捨て去った国民の信仰や道徳心を復興する仕事に取り組みました。根本の原因は「貪欲どんよく」で、宗教は見せかけだけのものとなっていました。予言者は神に対する罪悪、わけても盗みについて、民を糾弾きうたんしました。民全体が神に立ち返る道を示し、それに続くすばらしい祝福について宣べ伝えました。主の予言者が語った言葉は次のようなものでした。

「人は神の物を盗むことをするだろうか。しかしあなたがたは、わたしの物を盗んでいる。あなたがたはまた『どうしてわれわれは、あなたの物を盗んでいるのか』と言う。十分の一と、ささげ物をもってである。あなたがたは、のろいをもって、のろわれる。あ

って神に仕える人々は神の息子、娘として救われます。そのような人は宝とも見なされ、この時に至ってすべての人は「神に仕える者と、仕えない者」の最後の境遇を見分けられるようになるでしょう。

什分の一の原則は古代から定められていた主の律法です。父祖アブラハムはサレム(エルサレム)の王、メルキゼデクに什分の一を納めました。(創世14:18-20; アルマ13:15参照) 什分の一の律法はこの神権時代に再び確立され、それを守るときに得られる約束は、今なお、差し止められても無効になっていません。什分の一の律法は、それを守るために聖徒の資産からどれほどを捧げればよいのか、予言者ジョセフ・スミスが主に伺いを立てたときに与えられた啓示によって、この神権時代に再び導入されました。1838年7月8日のことでした。

「これを以てわが民が為す什分の一の始めとなすべし。まずこれを為して後、かくの如く什分の一を納めたる者は、以後毎年彼らの得る全利益の什分の一を納むべし。これを以て、わが聖なる神権のためにする彼らの守るべき永久的定法となす、と主は言う。」(教義と聖約119:3-4)

什分の一の定義を説明するに当たって、大管長会は次のような手紙を書き送っています。

「私たちの知る限り、最も理解しやすい声明は、主ご自身の声明である。すなわち、教会員は『毎年彼らの得る全利益の什分の一』を納めるべきである。この全利益は、収入を意味すると解される。これ以外の声明を出すことは、いかなる人といえども認められない。」(大管長会からの手紙、1970年3月19日付。教義と聖約119章:「教会指導総合手引き [1989年版]」p.9-1参照)

第6代大管長ジョセフ・F・スミスは、次のような言葉で、什分の一の律法の背景と目的を説明しています。

「この世につける民のすべての福利を満たす手段を確保する目的で、主はシオンにおける一層大きく完全な律法に代え、この什分の一の律法を設けられた。主はこの業を始められた当初、什分の一の律法よりもっと完全な律法

を制定された。(主はこれ以前に資産に対する奉獻の律法と管理の職を教会に授けておられ、会員たち〔主として指導的な立場にある長老たち〕は、永遠に変わらぬ誓約をもってそれを実践していた。教義と聖約119章の前書き参照) それはもっと大きなもの、大きな力を含んでおり、主の目的をもっと速く達成するものであった。しかし人々はそれを実践する用意ができていなかった。そこで主は人々に対する愛から、より完全な律法を見合わせられた。そして、主が心に持っておられた目的を達成するため、主の倉に資産を置くための什分の一の律法を与えられた。それは貧しい者を集め、福音を全地の民に広めるため……であった。この律法がなければ、以上のことは達成できなかったであろう。また神殿を建てて維持することも、貧しい人を養い、着物を与えることもできないだろう。このように、什分の一の律法は教会にとって必要なのである。主がこれを特に強調されたのは、次の聖句に見られるように必要性が非常に大きいからである。

『われ汝らに告ぐ、もしわが民にしてこの律法を守りて聖く保たず、またこの律法によりてシオンの地をわれに聖くして以てわが律令と審判とをそこに保ち、その地を最も聖きものとなさずんば、見よ、誠にわれ汝らに告ぐ、そは汝らにとりてシオンの地にあらざるべしと。こは、あらゆるシオンのステーキ部に通ずる範例なり。誠に然り、アーメン。』(教義と聖約119:6-7)

この原則によって、この教会の会員の内実さが測られる。この原則によって、神の王国を支持している人と反対している人がわかる。この原則によって、だれの心が神のみこころを行なうことと神の戒めを守ることに向けられており、それによって神のもとにシオンの地を捧げようとしているか、あるいは、だれがこの原則に反対し、シオンの祝福を拒んでいるかがわかるだろう。この原則によって私たちが忠実であるかそうでないかがわかるので、この原則は非常に大切である。この点で、この律法は神に対する信仰、罪の悔い改め、罪の赦しを受けるためのバプテスマ、聖霊の賜を授かるための按手礼

と同じくらい必須のものである。」(「大会報告」1900年4月、p.47。ロイ・W・ドクシー編「末日の予言者と教義と聖約」第4巻、pp.185-86に引用)

何年前の話ですが、私が監督を務めていたところに、祝福師の祝福の推薦状を求めて私のもとを訪れたワード部の会員がいました。中年の彼は広く名を知られ、技師として成功しており、立派な家庭の父親でもありましたが、祝福師の手から祝福を受けた経験がそれまでなかったのです。面接の少し前に、彼は合衆国のある大都市に住む高名な眼科医から診察を受け、当時彼のかかった目の病気は不治の病であり、いづれ両眼とも失明するであろうと宣告されたのでした。この善良な兄弟は悩みました。自分の仕事には視力がどうしても必要なのに、目が不自由でこれから先どうして家族を養えるだろうか。彼は自分にどんな将来が備えられているかを知りたくて、祝福師の祝福を求めて来たのです。ところが彼は面接の中で、什分の一を納めていないことを告白しました。このため彼の望みを断わらなければなりません。主のみ前にふさわしくするために什分の一を納めるよう、私は彼を励ました。面接の後、彼は時を置かずして私の前に現われ、かなりの額の小切手を差し出して、その年の分の完全な什分の一であると言いました。ステーキ部の祝福師に持参する祝福師の祝福の推薦状ばかりか、神殿推薦状にまで記入できたときは、本当に喜んだものです。

続く何カ月かの重要な期間に彼の病状の経過を確認していたところ、視力は安定し、回復の方向へ向かっていきました。仕事を辞めずに済みました。翌年末の什分の一の面接の折、彼は次のような話を聞かせてくれました。視力は悪化して病状が進行するとともに、事業の方も深刻な経営難に陥り、経済状態が苦しくなっていました。ところが視力が回復してくると、当時改装中であつたソルトレーク神殿の空調施設やその他の機械設備の工事に入札するチャンスに恵まれました。うまく仕事が得られれば、これまで手掛けてきたものの中でも最大規模の重要な仕

事になるのは明らかでした。最終入札を終えて2, 3週間たったころ、商談に呼び出されました。そのとき言われた言葉を思い出せる限り正確に記すと、建築部の代表者は次のように言ったそうです。

「兄弟、神殿の機械設備の工事を発注するに当たって、あなたを請負業者として指定できることをうれしく思います。ただひとつ、条件があります。現在有効な神殿推薦状を見せていただかなければなりません。」

この愛する兄弟は、静かな監督室の中で涙ながらに、以前に什分の一を納めるように励ましを受けたことに対して、心からの感謝の言葉を私に述べました。彼は、主が自分の視力を守ってくださっただけでなく、事業まで成功させてくださったことを認めました。

主はこう言われました。「……われにかかわるすべては霊のとなり。われは何時たりとも、いまだ嘗て俗世の事にかかわる律法を与えたることなし。如何なる人にも、人の子らにも、……与えたることなし。……わが誠命は霊に関わるものなればなり。わが誠命は肉体のものにも俗世のものにもあらず、また肉欲のものにも情欲のものにもあらず。」(教義と聖約29:34-35)

しかし、次のような疑問を持つ人がいるかもしれません。「現金や地上の現物をもって納める什分の一の律法が、どうして霊の律法と言えるのでしょうか。」確かに什分の一はこの世の物とかかわりを持っています。しかし、什分の一の律法が存在する目的について考えるなら、上記の質問に対する答えを見いだすことができるでしょう。今、壮大な伝道プログラムを通じて、ほぼ100カ国で4万6,000人以上の宣教師たちが福音を教えています。それだけの強大な陣容を維持するには、相応の経費を必要とします。直接的にも間接的にも、伝道活動の恩恵を被っていない人はいません。この活動自体、きわめて深遠で重要な点において、霊的なものであると言えます。実に、この力ある神のみ業は、「警めの声」が「〔主の〕弟子たちの口」を通してあらゆる人々の耳に鳴り響き、すべての人々の心を刺し貫くまで、そしてみ業が完了

するまで、前進していくでしょう。(教義と聖約1章参照)それは世界中にシオンを確立し、築き上げるために行なわれるのです。この中には神殿や教会堂の建設と運営も含まれます。それらの建物は木材、石材、そのほかの地上の材料を用いて建てられますが、その真価を定めるのはどのような目的の下に使用されるかという点にあります。栄光に満ちた神の最高の祝福を受けられる場所は、神殿をおいてほかにありません。聖なるエンダウメントや結び固めの祝福を受け、自分と先祖の完成のために必要な、亡き先祖の身代わりの儀式が受けられる場所も、神殿だけです。教会堂で私たちは礼拝し、教えと訓戒と警告と叱責を指導者から受けます。そのどれもが人々を強め、この世で喜びを経験し、来世で永遠の生命を受ける資格を得られるよう助けるために与えられたものなのです。これらはすべて本質において霊にかかわることであり、大半が忠実な会員たちの納めた什分の一によって可能になったことなのです。シオンを確立し築き上げる方法はまだまだいくらかでも挙げられるでしょうが、前述の項目は什分の一基金の使用例に過ぎません。すべては啓示によって定められたとおり、大管長会と十二使徒定員会、ならびに管理監督会の指示と監督の下に処理されています。(教義と聖約120章参照)

什分の一を進んで納める態度は、霊性の高さを測るためのひとつの標準となります。この律法に従って生活する信仰を育てると、自分の霊的な福利と将来に対する投資、そして神の王国の進展によって、福音のすべての原則に一層熱心に従おうという決意がわき上がってきます。

予言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示の中に、天から教えられた様々な原則に交じって、ひとつの興味ある箇所があります。この啓示が与えられた1831年、ジョセフは兄弟たちと共にミズーリ州シオンに旅立つ準備の最中でした。

「見よ、人の子の来るまで今より後を『今日』と称えらる。誠に『今日』は犠牲の日、わが民の『什分の一』を捧ぐる日なり。この『什分の一』を納

めたる者は人の子の来る時火に焼かるることなし。『今日』を過ぎれば火に焼かる時来らん。われ主の言い方によりて語る、われ誠に告ぐ、明日すべて高ぶる者と悪を行う者はわらのごとくにならん。われは万群の主なれば、彼らを火にて焼きつくし、すべてバビロンに留まる者一人も助くることなからん。」(教義と聖約64:23-24)

1913年の教会の総大会で語られた十二使徒のラドガー・クラウソン長老による解説以上にこの箇所をよく説明し得たものはないでしょう。

「これはどのような意味だろうか。什分の一を納めなければ、主が火の玉を天から降ろして、その人を焼き尽くしてしまうという意味だろうか。いや、それは主の方法ではない。主は自然の原則にのっとりて事を行なわれるお方である。私の理解が正しければ、これの意味するところは、什分の一を納めずに主の明白な戒めを無視する人からは、主のみたまが離れ去ってしまう、すなわち、義務を続けて怠るならば、神権の権威がその人から失われてしまう、というのである。徐々にではあるが確実に、その人は闇の中へさまよいき、ついには……悪人と共に目を上げて見ることになる。そこがそのような人々が終局的に行き着く先である。そして、滅びと焼き尽くす火とが来るとき、その人は悪人と共にいて、滅ぼされることになる。これに対して律法に従った人々は義人の中にいて守られるであろう。天にまします神が、義人を保護し守ってくださると約束されたからである。皆さんに申し上げたい。悪人が焼かれ、滅ぼされる日が来る。そのとき私たちはどこにいるだろうか。悪人の中であろうか、義人の中であろうか。」(「大会報告」1913年10月, p. 59。「末日の予言者と教義と聖約」第3巻, pp. 350-51に引用)

什分の一を納めることは、経済的な問題ではなく、むしろ信仰の問題です。什分の一を納めるときに、信仰が強まり、霊性も高まります。神の律法に従順な人の心の中には、天来の平安が絶えず宿っています。什分の一の義務を果たし始めるだけで、天の祝福がせきを切ったように注がれます。本当に主

を愛し、主に信頼を寄せている人なら、みずから進んでしかも喜んでそのようにするでしょう。主が予言者マラキによって、什分の一を納める人に与えてくださった驚くべき約束にも、心を留めるべきです。律法は永遠であって、約束されている祝福もまた同様です。基本的な天の律法のひとつは、主が与えてくださる祝福は、その祝福に基づく律法に従うことによって授けられる、というものです。(教義と聖約130:20-21参照) 什分の一を実際に納めずに、そこから得られる祝福を手にすることはできません。自分が預金していない銀行口座から利子を受け取ることはできないのと同じです。この点について真剣に考慮するなら、什分の一を納められない、などということはないはずで、ほかの神のすべての律法と同様に、什分の一の律法に対する証は、それに従うときにもたらされます。

この話の初めに引用したように、ゴードン・B・ヒンクレー副管長は什分の一の納入を、そのほかの様々な原則をわきに置いて、守るべき基本原則のひとつとして挙げられました。ヒンクレー副管長に代わって語ることなど

私には思いも及びませんが、察するに、ヒンクレー副管長は次のような事柄をはっきりと認識されていたのではないかと、という思いが私の心を離れません。すなわち聖徒たちが什分の一を納めるならば、彼らのイエス・キリストを信じる信仰は増し、霊性は高まり、証は堅固になり、彼らが切実に必要としている祝福は豊かに与えられ、神の王国建設に対する責任を人々と分かち合おうという気持ちが生じ、主に対する愛は深まり、礼拝と聖徒たちとの交流に対する望みは強まり、神が注ぎたもう祝福への認識と理解力が伸び、生活が向上するであろうということです。信仰や献身の度合いが深まるにつれ、人はあらゆる点で福音の原則に従った生活を送り、神の聖徒たちとの完全な交流を保ち、主の宮居で授けられる儀式をはじめ、神が忠実な息子、娘たちのために用意しておられる最大の祝福を受けるにふさわしい者になりたい、と願うようになります。

什分の一の律法を守るのはむずかしくありません。実に簡単です。すべてのものを授けてくださったお方に、自分の収入の中から10分の1をお返しす

ればいいだけです。神はこの地球とそこの中にあるすべてのものを創造されました。すべての貴重な金属がどこに埋蔵されているか、人類の珍重する宝石類がどこで見付かるか、石油がどこで発掘できるか、地の宝がどこに隠されているか、すべてをご存じです。地上における神の王国建設に必要な費用の全額を賄うために、そうした秘密の全部または一部を主の予言者たちに明かすこともできるのです。しかし、主がそのような方法でご自分のみ業の経済基盤を用意されることはありません。むしろ什分の一の律法を備えて、人が利己心と貪欲を退け、信仰を持って主に心を向けるとき、彼らの生活を祝福できるようにされるのです。主は私たちの霊性を伸ばし、一層献身できるように助けたいと望んでおられます。それは、私たちがより高い天の律法に従って生活し、世の事柄から離れ、バビロンから逃れられるようにするためなのです。それが什分の一の律法なのです。天父の助けがあって、私たちがこの神聖な戒めを正直に守れるように願っています。

過ぎし日を振り返り、明日を見詰める

ノーラ・リポート

アジア地域の教会の一員であることを本当にうれしく思っています。この数カ月の間に起こったたくさんの出来事を通して天父を身近に感じ、多くの教会指導者から良い影響を受けてきました。さらにそのような機会が用意されています。

4月に韓国の光州とソウルで、ヒンクレー副管長、そしてマックスウェル長老ご夫妻を招いて開かれた地区大会は本当に霊的な集会でした。彼らの霊感に満ちた説教を聞けることは大きな祝福です。ヒンクレー長老を見ているだけで、主がその僕をどれほど強め、

鼓舞しておられるかがわかりました。アジア地域での短い滞在期間中、ヒンクレー長老は香港と日本における用務を果たされました。

中央初等協会会長のマイカリーン・P・グラスリ姉妹は、4月にユタ州ソルトレークシティで行なわれた初等協会のオープンハウスで、すばらしい話をされました。ニューファイ第3書17章の聖句を引用して、子供たちへの接し方や教え方について救い主がどのような模範を示されたかを、教えてくださいました。この章を深く考えながら読めば、主にある子供たちと共に活動

していくうえで、洞察力や靈感を新たにできるでしょう。

6月には中央若い女性会長のアージェス・G・カップ姉妹を日本と韓国にお迎えし、指導者会が行なわれました。アジア地域の教会の青少年は、「若人のために」(34285 300)という大管長会のメッセージが掲載された新しいパンフレットを受け取ったことと思います。8月には香港で地域ユースカンファレンスが開かれ、この新しいパンフレットがテーマに採り上げられたと聞いています。このパンフレットにあるメッセージは、国情や文化の違いを越えて、



「嵐を静める」テッド・ヘニンガー画

「すると突然、海上に激しい暴風が起〔り〕、……弟子たちはみそばに寄ってきてイエスを起し、『主よ、お助けください、わたしたちは死にそうです』と言った。するとイエスは……起きあがって、風と海とおしかりになると、大なぎになった。」(マタイ 8 : 24-26)



1世紀に及ぶ自国の伝道活動の歴史を背景に、現在も活動
を続けるトンガの宣教師たち。「トンガの聖徒たち——
信仰の遺産」本誌36ページ参照。

アジアの青少年たちが幸福で満ち足りた人生を見いだすのに役立つでしょう。パンフレットの中には次のような大管長会の証が記載されています。

「これらの原則が真実であることを証します。また聖典の中に述べられている原則やこのパンフレットに強調されている標準に従う人には、主の祝福があることをお約束します。その祝福の中には、私たちの心を落ち着かせてくれる聖霊の絶えざる導き、安らかな気持ちと幸福感などがあります。」
（「若人のために」p.4）

また、1992年は扶助協会創設150周

年に当たります。イレイン・L・ジャック姉妹は、この特別な機会を祝うために、扶助協会が世界中の姉妹たちの生活に与えた影響を衛星放送を通じて紹介する予定である、と発表されました。テーマは「全世界の姉妹に手を差し伸べる」です。このテーマにより私たちは、自分が世界規模の共同体に属しており、視野を広げる必要があることを、今年1年覚えていられるでしょう。1992年3月を、このテーマに思いをはせる月としてください。

扶助協会創立150年を記念して、扶助協会の歴史写真集が来年発行される

予定です。アジア地域の姉妹からも写真が多数送られたと聞いています。私たちはそれらのうちの何枚かが写真集に掲載される日を、心待ちにしています。

いろいろな補助組織で数多くの催し
が計画されており、今年も心を鼓舞される霊的な夏と秋を迎えることができるでしょう。私たちが福音によってひとつとなり、地上における主のみ業を祝うことができるように、また私たち皆が主のみ業にあつて大切な働きができるように、お祈りいたします。

チャーチニュース

ローカル

ふたりの教会幹部、 新たに召される

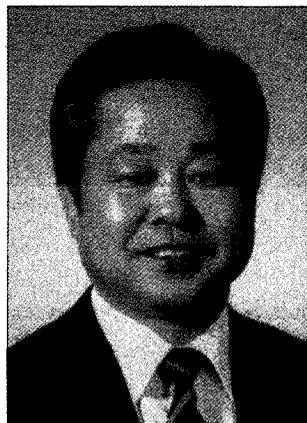


スチーブン・D・ナドール長老

大管長会は、新たにふたりの七十人第二定員会会員が召されたことを発表しました。

新しく召されたのは、ユタ州オグデン出身のスチーブン・D・ナドール長老と、韓国ソウル出身のハン・イン・サン長老である。ハン長老は教会幹部に召された最初の韓国人である。

ナドール長老(49歳)はこれまで、大規模な事業を手掛ける民間の宅地開発会社ボンネビル・パシフィック・コーポレーションで副社長および財務部長を務めてきた。またユタ州オグデンにある州立ウェーバー大学の学長を1985



ハン・イン・サン長老

年から1990年にかけて務め、同大学を単科大学から総合大学に昇格させるのにも尽力した。

ナドール長老は1942年5月31日、アイダホ州アイダホフォールズに生まれた。ユタ州プロボにあるブリガム・ヤング大学で化学の学士号を取得し、マサチューセッツ州ケンブリッジにあるハーバード大学で修士号を取得している。投資銀行に1年間、続いてユタ大学ビジネスカレッジの教授として2年間働いた後、カリフォルニア大学パークレー校で博士号を取得した。その後ブリガム・ヤング大学の教授として7

年間教えた。

1983年にブリガム・ヤング大学を退職し、インターマウンテン乳業の社長に就任した。その2年後、州立ウェーバー大学の学長に指名された。

ナドール長老はいくつかの組織で重役を歴任する傍ら、スカウト活動やロータリークラブでも活躍してきた。

教会では、地区代表、監督、副ステークス部長、スカウトの隊長、長老定員会会長を歴任している。

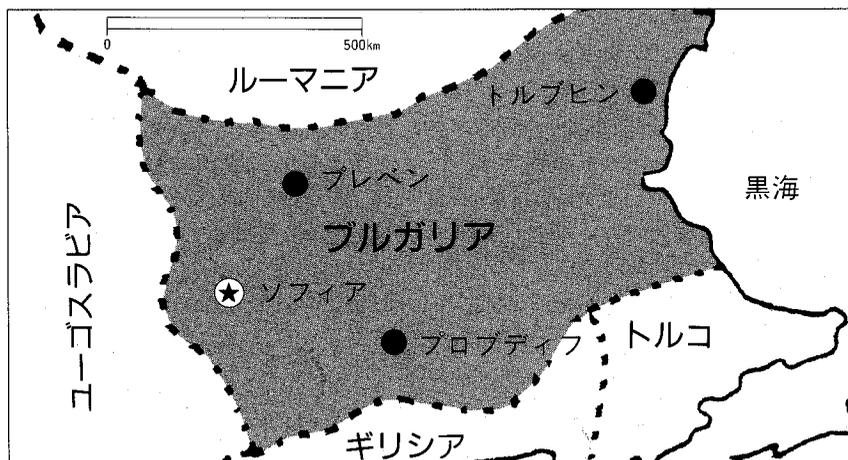
ナドール姉妹との間に7人の息子がいる。

ハン長老(51歳)は、1939年12月10日、韓国ソウルに生まれた。これまで7年間にわたってソウルにある教会管理本部で地区監督を務めてきた。それ以前は教会のソウル・ディストリビューションセンターを管理していた。また韓国の教会のための翻訳の責任者でもあったハン長老は、モルモン経を韓国語に翻訳した。

仁川にある大学校を卒業し、ソウルの弘益大学校でも学んだ。教会では、支部長、地方部長、地区代表、韓国釜山伝道部の伝道部長を歴任している。ハン長老は伝道部長、地区代表に召された最初の韓国人でもある。教会幹部に召された当時、日曜学校教師、また神殿の結び固めの儀式的執行者として働いていた。

妻のリー・キン・イン姉妹との間に5人の子供がいる。

ブルガリアに新伝道部 創設される



ブルガリアに、ヨーロッパで37番目、世界では268番目のソフィア伝道部を開設することが、大管長会より発表された。

この新伝道部は、東欧で本年度設立される伝道部としてはドイツ・ベルリン伝道部に続いて2番目である。このふたつの伝道部は共に7月1日に活動が開始される。

新しい伝道部の伝道部長に召されたのは、ブルガリアのプレスラブ出身のキリル・P・キリアコワ兄弟(68歳)である。キリアコワ伝道部長は1966年に教会に改宗し、召されたときは、歯科医を退職して合衆国バージニア州フェアファックスステーク部マナサス第1ワード部に所属していた。これまでブルガリア海軍で軍務に就き、その後教会ではステーク部宣教師、ワード部書記、支部書記、ステーク部書記、ワード部財政担当書記の責任を果たしてきた。

妻のネベンカ・レオニド・イリエバ姉妹もブルガリアの出身で、これまで様々な責任をワード部やステーク部で果たしてきた。また、神殿職員や教会の翻訳者としても働いてきた。ふたりの子供がいる。

ブルガリア・ソフィア伝道部はオーストリア・ウィーン東伝道部より分割され設立された。新伝道部内の人口は900万人で、そのうち教会員は約50人である。(編注—この人数は伝道部設立前の1991年5月現在のものである)オーストリア・ウィーン東伝道部の伝道部長を務め、4月6日に七十人第二定員会会員に支持されたデニス・B・ノイエンシュバンダー長老は次のように述べている。「ブルガリアの人々は宗教にとっても好意的であり、宣教師は大きな影響を及ぼしています。」

1990年9月10日、ブルガリアの地に最初に到着した宣教師は2組の夫婦宣教師とふたりの姉妹宣教師である。彼

らは英語教育を通じて伝道の業に携わってきた。

1991年5月の時点でブルガリアで伝道の業に携わっているのは10人の長老と4人の姉妹宣教師、そして2組の夫婦宣教師である。最初のふたりの長老が到着したのは1990年11月13日のことであった。

ほとんどの宣教師はユーゴスラビアから転任してきているが、彼らはブルガリア語に近いセルボ・クロアチア語を話せるため、言葉に大きな支障はない。

ノイエンシュバンダー長老は次のように述べている。

「ブルガリア人は進歩的で繊細な心を持つ人々です。しかし、過去4,50年の間、宗教を広めることは許されておらず、ブルガリアでは無神論だけが公に認められた考え方でした。人々には選択の余地がありませんでした。しかし、無神論によっても人の心の奥底にある光、確かに存在する何かを信じ、霊的なものを求める欲求が失なわれることはありませんでした。と言うより、それはできないことだったのです。」

今、人々の生活に大きな変化が現われています。大抵の人は聖書もほかの宗教書も持っていません。このことがかえって宗教への関心を非常に高めています。もちろん霊的な事柄に対してさらに敏感な人々は、この新しい自由によって、これまで心に閉じたままになっていた、あるいは人に知られないようにひそかに守ってきたりした信仰を表に出せるようになりました。政府関係者もブルガリア人の求めている正直、道徳、誠実を重んじるこの教会のような組織を歓迎しています。」(「チャーチニュース」1991年5月18日付)

ロシア共和国の首相、 タバナクル合唱団のコンサートに 招待される

カリフォルニア州ロサンゼルス

ロシア共和国のイワン・S・シラエブ首相は、6月24日にモスク

ワ・ポリショイ劇場で催されたタバナクル合唱団のコンサートに非公式の招

待を受けた。

十二使徒評議員会会員のラッセル・M・ネルソン長老は、州知事を表敬訪問するためカリフォルニア州に滞在中のシラエブ首相およびほかのロシア高官と、4月25日、ロサンゼルスで対面していた。

「予定されていたタバナクル合唱団のロシアへのコンサートツアーについて首相をはじめとする方々と話しまし

た」とネルソン長老は語った。

ネルソン長老はタバナクル合唱団のカセットテープを贈り、首相とその一行をモスクワでのコンサートに招待した。ネルソン長老は「皆さんは合唱団のロシア訪問を心待ちにしておられました」と述べた。

ネルソン長老は会合の後半で首相の質問に答えて、教会の基本的な教えやロシアにおける教会の支部の現状を説明した。ネルソン長老は首相一行についてこう語った。「首相もほかの方々も大変理解があり、礼儀正しく親切で、必要ならばなお一層援助の手を差し伸べる、と申し出ていただきました。」

ネルソン長老に伴い会合に出席したのは、教会外渉部カリフォルニア地域担当ディレクターのキース・J・アトキンソン兄弟、ソビエト連邦との貿易事業に携わる世界規模の貿易会社SATCOインターナショナル社のスチーブン・H・スムート兄弟とマイケル・D・スウェンソン兄弟である。このたびの教会とロシア高官との会合は、スムート兄弟の取り計らいにより実現した。

シラエブ首相と同行したのは最高補

佐のウラディミール・V・ボロジン氏、秘書課課長アラール・ザパロワ夫人、首相の外務補佐ミハイル・V・クリャチェブ氏、ロシア社会発展基金復興協合理事のドミリー・L・ズボブ氏、同副理事アレクセイ・N・ツアレコロゼブ氏、そして閣僚会議情報部マスメディア担当者のバレリー・V・グリーシン氏である。（「チャーチニュース」1991年5月11日付）

追記——タバナクル合唱団は、6月、ヨーロッパ8カ国で21日間にわたる公演旅行を行なう。このうち、ソビエト連邦、ポーランド、ハンガリー、チェコスロバキア、オーストリアの各国でのタバナクル合唱団の公演は初めてであり、ソビエト連邦では6月24日にモスクワ、6月27日にレニングラードの2カ所でコンサートが行なわれる。（「チャーチニュース」1991年6月8日付）



教会外渉部事務所（カリフォルニア州）後援の朝食会へ向かいながら談笑するラッセル・M・ネルソン長老（右から3番目）とロシア共和国のイワン・S・シラエブ首相（右から4番目）。

若人シリーズ

若人に道德の標準を 教えるには

現代では若人に対する仲間からの圧力がきわめて大きく、親の指導もそれだけむずかしくなっています。道德の標準はかつてなかったほど混乱の度を深め、その原因は家庭でのコミュニケーションの欠如にあるようです。

●若人に意見や考えを自由に述べさせ、後にそれを家族会議で話し合う。彼らの意見を尊重し、大切なものとして扱う必要があります。

●親の標準を押し付けてはならない。結局、すべては若人自身の選択にかかっています。だからこそ彼らが選択する際に前向きな影響を与えることが重要になるのです。

●若人に道德の標準について話す。道德教育を、他人に任せてはなりません。大切なことは家庭で教えるべきです。

●模範になる。行動は言葉よりも効果があります。若人は大人の行動を見ています。大人の行動が福音の標準に添う一貫したものでないなら、若人はそれでも構わないと思うでしょう。

●教会発行の小冊子「若人のために」（34285 300）から話をする。この中では道德の問題が強調されています。若人に耳を傾け、理解し、愛することを忘れないでください。
ユタ州サウスジョーダン第15ワード部日曜学校16—17コースでの話し合いから

■ 慎み深い服装

子供には十代に入ってからではなく、幼いうちから道德の標準を教えるべきだと思います。慎み深い服装をするよ

うに教えることは、それを実行に移す方法のひとつです。

子供は8歳になるまでには、どんな水着や服装がふさわしいかわかるようになります。

慎み深い服装は、自分が何者であるかを思い出させてくれます。服装が教会の標準にかなっていれば、おそらく行動にも影響が出るでしょう。同時に、自らの標準を人に宣言することにもなります。

ルイジアナ州ハモンド
ジャネット・バウンズ

■ 「じょうご」のたとえ

若人に「じょうご」のたとえについて教えてください。じょうごの外にいれば、中に落ち込むことは決してありません。一方、じょうごのふちを行ったり来たりするなら、落ち込む可能性があります。じょうごの斜面に足を滑らせれば、必ず中に落ちてしまいます。じょうごの外にいてください。肌が露出するような服装や、肉体的な接触を

伴うなれなれしい行為、ネッキングやベッティングにはかかわらないでください。

カリフォルニア州ホーソン
ジャン・ディクソン

■多くのテーマ

末日聖徒イエス・キリスト教会版欽定訳聖書の項目別索引で「道徳(morality)」の項を調べると、次のように書いてあります。「以下の項参照。慈愛、純潔、清さ、勇気、恵み、正直、誠実、公平、命の神聖さ、慎み、分別、正義、自制、堅固な態度。」

このように、たくさんのお話すべきテーマがあります。まずひとつを選んで、話し合ってください。若人に教えるときに視覚教材が役立つこともあります。視覚教材を使うと、若人の注意力が持続するからです。

チェコスロバキア・プラハ伝道部
クリス・キャンノン長老

■肯定的な面を強調する

福音のほかのテーマと同様に、性に関しても、子供たちがまだ幼いうちから、十分な時間をかけて教えることが肝要です。教会には子供に道徳を教えるうえで役立つ資料がたくさんあります。私たちは「良い親になるために」(PBIC0507JA, 3125 300)を選びました。この本から私たちは次の2点を学びました。第1に、性的な関係についてはほかの関係とは異なっている、ということをお子に教える。第2に、単に言葉の上で道徳を教えるよりも、模範を示す方がずっと大切である、ということです。この本はどの年代の子供にも当てはまるように書かれています。

純潔の律法について否定的な面を強調するより、肯定的な面を強調してください。若人にとって大切なのは、道徳的に清い生活を送るなら素晴らしい夫婦関係が築ける、という点を理解することです。純潔の律法に従って生活するならば、夫婦は互いに完全に相手信頼できます。このような関係こそ、永遠に続くものなのです。

インディアナ州ブルーミントン
マイク・ドレイス、アン・ドレイス

■家族の一致

道徳教育は子供の誕生と共に始まります。家族の一致を促すことは大切で、それには家族が道徳的な標準を守る必要があります。伴侶、子供、同胞に対する愛がその鍵となるでしょう。家庭はかなめとなる重要な場所だからこそ、教会では家族の大切さを訴え、家族が道徳的な標準をきちんと理解できるようにし、その標準が神から与えられたものであることを理解させる必要があるのです。私たちの目的は、世の者ではなく神のようになることです。そのために聖典を用いて教え、青少年にも聖典を読むように啓発する必要があります。家庭の夕べを開き、共に教会の出版物を読んで話し合い、祈り、一緒に娯楽の時間を持てるように努めなければなりません。

オレゴン州ミルトンフリーウォーター
ロジャー・ジョーゲンセン

■模範によって教える

模範によって教えてください。強制するよりは導く方が易しいのです。自分は知恵の言葉を破ったり、標準の低い映画や雑誌を見たりしておきながら、青少年に標準を受け入れるよう期待はできません。

言行に矛盾をなくしてください。反対することも必要ですが、怒りに任せて反対してはなりません。必要な指導は公平かつ敏速に行なってください。

適切な機会をとらえて、性的な関係やそのほかの事柄について、率直に話し合ってください。性的な関係が、結婚生活においても悪いものであるとか、罪悪であるという印象は残さないでください。これは神様からのすばらしい贈り物なのです。とはいえ、万一結婚という枠の外で使うならば、深い悲しみをもたらすことになるのです。

メリーランド州ベセズダ
スターリング・コルトン、エリナ・コルトン

■言行一致

良い模範を示し、言行を一致させ、その上で自分にも他人にも正直であるよう、青少年に教えてください。正しいことを行なう勇気をいつも持つよう

に教え、聞き上手になり、愛を示してください。彼らの可能性について何でも教え、幸せになってほしいと望んでいることを子供たちに伝えてください。

青少年に従うべき規則や指針を与え、彼らからみずから適切な選択をする特権とその報いとを奪わないでください。

子供が幼いうちに、慎み深い服装をするよう教えてください。家族の祈りの中で子供たちのために祈ってください。神殿結婚と伝道について一人一人の子供を準備させてください。

アリゾナ州ラーピーン
シンディ・マルドネド

■教材を使う

私の夫は、監督として、悔い改めには大きな教育効果があることを理解するようになりました。深刻な罪である必要はありません。若い人々が生活の間違いに気づき、罪を悔いているときには、教えを受け入れやすい状態にあります。悔いる精神のおかげで道徳的な規範を身に付けやすい状態になっているのです。若人は、この世的には魅惑的に見えるものも、実は不快なだけであることに気付くのです。

教会で入手できる視覚教材には高い利用価値があります。どんな年齢層の人々にも訴える力を持っています。きわめて楽しく手近な方法で、福音の真理が学べます。教会のビデオを見ながら、小さな子供に正直について教えてください。十代の若人には、サタンが実在することを教えてください。

特に安息日には、精神を高揚させる音楽を家庭で楽しんでください。

アリゾナ州メサ
クリスティン・ウォーカー

まとめ

1. 模範になる。家庭で福音の標準に添って生活する。
2. 小さいころから良い価値規準を教える。
3. コミュニケーションを図る。道徳について家族で話し合う。
4. 青少年に愛を示す。彼らを信頼していることを態度で表わす。

(「チャーチニュース」1991年2月9日付)

再組織された 山口地方部長会

吉岡公夫地方部長の解任に伴い、去る4月28日に行なわれた山口地方部大会で、藤竹幸雄兄弟(写真右)が新たに地方部長に召されました。第一副地方部長には新たに平松彰兄弟(写真左)が召され、その任に当たります。

藤竹幸雄兄弟と妻の順子姉妹は1987年7月から1年半、東京南伝道部で専任宣教師として夫婦で伝道しました。

次にご紹介するのは、藤竹兄弟姉妹の伝道中を振り返っての証です。

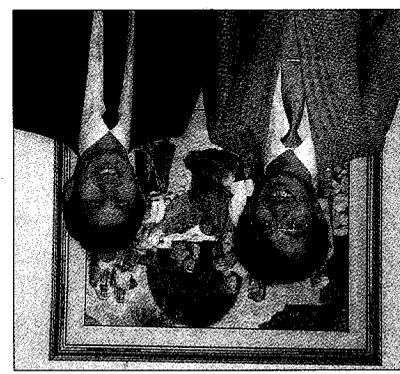
すべてを捧げて

山口地方部地方部長
藤竹幸雄

私 教徒の家庭に育った私でしたが、

私教の教えの中には心を引かれるものがないと、いつも感じていました。33歳のとき宣教師に会い、シヨセフ・スミスの最初の話を聞いて強く心を打たれ、妻と一緒に1973年3月30日にバプタイズムを受けました。

それ以来、地方部長や副伝道部長な様々な責任を受けてきましたが、その合間を縫って、よく自転車に乗って宣教師と一緒に伝道に出掛けたものでした。けれども私の心はそれだけでは満足しませんでした。「専任宣教師として伝道に出て、福音を人々に宣べ伝えたい。」子供に恵まれなかつたこともあり、伝道に対する熱意がどんどん強くなっていくのです。しかし当時の伝道部長からは、「地方部に残って、もう少しこの地の人々のために働いてほしい」と言われ続けました。高級木造住宅の建築家としての仕事も順調で、顧客からの信用も得、すべてがうまくいっている時期でした。仕事上の知人からも「それを全部捨ててまで行くことはない」と思われ、けれども、「今しかない」と思う時がやって来しました。仕事でも信仰生活でも一番油の乗った時期でした。「伝道



に出るには、人それぞれに時期がある。私たちが伝道に出るべき時は今を思い、てほかにはない。一番いい時だから、そ、今の信仰を神様のみ業に捧げた。い。」こそ思ったのです。

1987年7月、私たち夫婦は伝道の召しを受けました。私が48歳、妻が47歳のときでした。

私たちは様々な方法を用いてプロイチをしました。お経をあけてもらうだけで本当に先祖は救われるのでしようか、という疑問にわかりやすく答えることがから福音を伝えたいとありました。

新しい任地に転任になると、市の図書館や資料館に行つてその町の歴史を調べました。「新しい土地に行つたらその町の人になりきろう」と思つたからでした。

また私たちは、福音を伝える前に友達になりたいたいと考えました。そこで私は建築の技術を生かして、知り合った人々の家の屋根や、垣根を修理したり、包丁を研いだりしました。妻は伝道のために繻み物の資格を取つていたので、それを教えたり、お菓子や料理を作つて持つて行つたりしました。こうして信頼関係を少しずつ築いていくうちに、だんだんと人々の心が開き、福音に対して興味を持つて、私たちの話を聞いてくれるようになりました。

しかし人を改宗するのは神様であつて、私たちはそのための道具にしからできません。だからこそ与えられた才能

を使って本当の友達になることが、福音を伝える前提条件だと思つていました。全身全霊を込めて真心からの奉仕を続けたとき、人々は必ず心を開いてくれました。

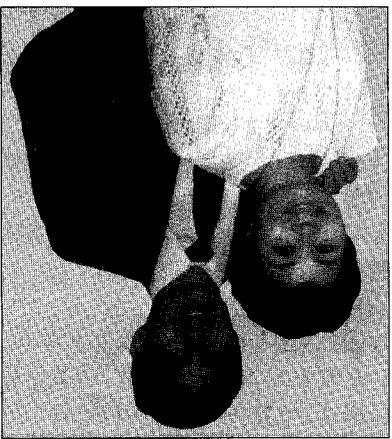
最初の任地である焼津で伝道していき、

たときのことでした。その日は台風で、激しい風雨の中を約束があつた求道者の家に向かいました。自転車で1時間ばかりかかると、私は妻の体が心配でたまりませんでした。以前に手術を受けた妻にとっては、天候の良いつきでさえ、外で伝道するのは決して楽なものではなかつたからです。

しかし、このとき私たちは不思議な経験をしました。台風で辺りの木々が音を立てて揺れているにもかかわらず、自転車をこぐ私たちには風が当たらないのです。主に感謝しながら求道者の家に行き、ドアをノックすると、驚いて出てきた求道者から「なぜ、そんなにまでして福音を伝えようとするのですか」と聞かれました。以来、彼の心は変わり、福音を真剣に学ぶようになりました。

このような経験は何度もあり、伝道は神様から導かれ、助けられて行なうもので、どれだけ成功しても自分を誇ることはできない、という証を強めていきました。

やが1年半の任期も終わり、帰還し、またすると驚いたことに、伝道前に私の顧客だった人たちはほかの業者を探さずに、私が帰つて来るのを待つていてくれたのです。こうして主から豊かな祝福を受けて、故郷の地で以前の仕事が続けられるとともに、主のみ



藤竹幸雄地方部長と妻

業に携われることを感謝しています。そして、いつの日かもう一度ふたりで伝道に出たいと、折にふれては妻と話し合っているのです。(ふじたけ・ゆきお)

みこころでしたら 従います

山口地方部宇部支部
藤竹順子

1973年にバプテスマを受けて以来、14年間ずっと伝道に出るという決心を持ち続けた主人の言葉に従い、1年半の時間を主に捧げるべく、伝道に出ました。

ある任地で出会った家族は、教会員の奥さんと5人の幼い子供たちが、ご主人の改宗を願って何年も祈り続けていました。ご主人はお酒が大好きで、酔うと子供たちや奥さんに暴力を振るっていました。家族はそんな父親におびえ、いつも顔色をうかがっていました。彼は以前に奥さんの勧めで2度宣教師から福音を学んだことがありました。でも知恵の言葉を紹介されるとお酒をやめることができず、中断してしまうのです。

その彼と親しく信頼関係を築くまでに、思い付くすべての方法を用い、時間を費やしました。知り合って2カ月たったころやっと福音を伝えることができるまでに、天父の存在やイエス・キリストの使命、ジョセフ・スミスの見神と順調に進んでいきました。けれどもやはり知恵の言葉を紹介する段になると、人が変わったように捨て鉢になり、「これ以上聞いても仕方がない。こんな自分の祈りを天父は聞かれるはずがないし、罪が赦されるわけがない。お酒は絶対やめられない。無駄なことはこれで終わりにしましょう。帰ってください」と吐き捨てるように言うのです。そのときの彼の顔は別人のようでした。「二度と来るな、帰れ」と追い立てられるように席を立ちました。驚いて返す言葉もなく沈黙している私たちに、その場の雰囲気を感じた子供たちがそれでも父親の改宗をあき

らめきれず、「お父さんは教会員になるよね。きっとバプテスマを受けるよね」と、目にいっぱい涙をためて哀願するのです。私たちにはお父さんを改宗する力はないかもしれないとも言えず、「続けて祈ろうね」と、涙を見せないように精一杯笑って別れを告げました。

哀願する子供たちの顔を思い出すと胸が張り裂けそうでした。アパートまでの道を自転車をこぐ元気もなく、重い足どりでもとぼと歩きました。「私たちが彼らにできることはもう何もないのだろうか。主は私たちに何をお望みだろうか。」考えてみても頭の中は空っぽで、何も思い付きませんでした。主のみこころがわからないことほどつらいものはありません。ふたりで泣きながら宣教師は皆同じ思いをするのだろうかと話していると、かつて私たちが改宗に導いてくれた宣教師の顔が浮かんできました。

どのくらい歩いたでしょうか。夫が突然、「ある。彼らにしてあげられることがたったひとつ残されている」と言うのです。「それは何」と聞き返すと、「ぼくの命がある。10年前交通事故で死んで当然のところを主より生かされ、あれから10年。たくさん恵みの中で生活し、こうして少しなりとも主のみ業に使ってもらった。思い残すことはもう何もないよ、あなたは寂しい思いをするだろうが、10年も余分に一緒に生活したんだからあきらめがつくよね。頼むから、主にぼくを捧げる祈りをしてくれ、引き換えに彼の改宗ができるなら」と真剣に言うのです。主は正しい願いを何でも聞かれるお方であるこ

とを私は知っていましたから、「お願いだから、私にその祈りをさせないで。ひとりにしないで」と何度も何度も泣きながら言いました。夫も泣いていましたが、結局そうするだろうとわかっていました。アパートへ着くなり夫はひざまずき祈りました。「この身でよろしかったら、どうぞ今すぐにも、お取りください。彼らの祝福と引き換えにするにはあまりに小さな命ですが。」その祈りを聞いて私もひざまずき、「それがみこころでしたら従います」とすべてを主に捧げるつもりで祈りました。後から後から涙が出て眠れませんでした。頭から布団をかぶり、声を殺して泣きました。

それから2日後、転任発表の夜が来ました。伝道部長からは転任は3カ月ごとにあると思ってくださいと最初に告げられていましたが、当時ちょうどその地で3カ月がたとうとしていたのです。これからどこへ転任になるのだろうか。彼の改宗を見ることはできなくても、主のみこころは後の宣教師が果たしてくれる。こう信じて本部からの電話を待っていました。ベルが鳴りました。受話器を取ると、それは2日前に二度と来るなどと言った彼です。「転任はありますか。」「いいえまだ連絡はありません。」「本部からの電話はあるはずがありません。神様が生きておられるならば、今のぼくの気持ちかわかるはずですよ。藤竹長老たちが転任したらだれがぼくにバプテスマをするのですか。もし今転任があるならば神が生きているというのほうですよ。これから先二度と神を信じることはないでしょう。」彼はこう言って電話を切



伝道中の藤竹幸雄兄弟と順子姉妹、共に働く宣教師やバプテスマを受けご家族と

りました。私の信仰は揺らぎました。もし転任があったらどうしよう。転任発表がないことを願いました。

結局その夜、本部からの電話はありませんでした。それを知った彼は「藤竹長老、ぼくを祝福してください。断食して待っています。そして祈ってみます。神様の教えを学ぶのもこれが最後だと思い、真剣に受けます。」こんな言葉をだれが想像できたでしょうか。この時ほど主の愛を強く感じたことはありませんでした。同時に主は近いうちに夫を天に召されるのではないかと、という思いが頭の中をよぎりました。けれどももう動揺しませんでした。主の力はこの兄弟に注がれ、断食と祈りによって彼は大きな障害を乗り越え、家族の前で感謝の祈りを捧げました。

2週間後の誕生日に、彼は大勢の親族に見守られて、新しい人生の第一歩を家族と共に歩むべく、バプテスマの門をくぐりました。最初から最後まで彼の目から涙が止まることはありませんでした。子供たちは大喜びでした。それから10日ほどたった安息日、主の愛を一身に受けた彼は聖餐会で初めてパンと水をパスする責任を受け、手を震わせ、大粒の涙をぼたぼた落として床をぬらしながら、責任を果たしていました。そして、こんな罪深い私が主の業に仕えられる、と証していました。私たちにとってはその任地での最後のパンと水を彼の手よりいただいた、霊的で厳粛な瞬間でした。

生まれ変わった彼の働きは、目を疑うほどでした。彼は、火事で焼け出された人を見舞い、衣類や食物を持って行きました。また私たちの転任先が決まるや、寒い地での伝道は大変だろうと電気毛布や毛糸の帽子や手袋など、たくさんのお愛を詰め込んだプレゼントを、みずから車を運転して届けてくれました。そして別れ際に「もしぼくのような求道者がいたら、ぜひこの経験を役に立ててください」と言って帰って行きました。

この兄弟と別れて10カ月後、その土地で彼より2カ月前に改宗したひとりの64歳の姉妹が子宮癌で入院されました。伝道部長に特別な許可をもらって見舞いに行くと、彼女はうれしそうに

あの兄弟の献身振りを話してくれました。それまで彼女は何年間も、病弱で日常生活が困難な息子さんとふたりで生活しており、家族のほかの人は皆、他界されていました。お母さんの世話のできない息子さんに変わって、その兄弟は献身的に看病し、身の回りの世話をされていたのです。「私は教会員になれて本当に祝福でした。1年足らずの教会員生活でしたが、こんなに手厚い看護をしてくれ、見守り支えてくださる教会員にどんなに心強いものを感じたことでしょうか。感謝の気持ちでいっぱいです。特にあの兄弟には言葉で言い尽くせないお世話をかけました。神様は64年間の私の人生で最高のプレゼントをくださいました。ありがとう。」彼女は私の手をしっかりと握り、神様と助けてくれた教会員にお礼を言いました。それから2週間後、彼女は静

かに息を引き取り神様のみもとへ帰って行きました。奇跡はこれで終わりませんでした。彼女が死ぬまで一番気がかりだった息子さんの病気も、教会の兄弟姉妹の働きと助けによって普通に生活できるまでに快復したのです。

神様は不思議な方法で愛する子供たちをみもとへ引き寄せようとなさいます。完全な方法で人々を導いておられます。奇跡はやんでいないのです。「時が存在するかぎり、大地があるかぎり、または救うべき人が一人でも地上にのこっているかぎり」(モロナイ7:36-37)、そして命がある限り、もう一度ふたりで伝道に出たいと思います。私たちは多くの恵みをいただいています。伝道するなら、少しなりとも主にお返しできることを証します。(ふじたけ・じゅんこ 支部扶助協会教育担当副会長)

天のお父様からの私への愛

まわりの人々からの私への愛は

天のお父様からの私への愛

まわりの人々からの私への優しい言葉は

天のお父様からの私への優しい言葉

まわりの人々からの私への親切は

天のお父様からの私への親切

まわりの人々からの私への助けは

天のお父様からの私への助け

まわりの人々からの私への慰めは

天のお父様からの私への優しい慰め

人々やすべてまわりのものを通して私にくる

愛や、優しさや、助けや、慰めや、すべての良いものは
皆、天のお父様からの、私へのもの

みんな、皆、天のお父様が私にして下さること

すべては天のお父様からの私への愛



山口地方部防府支部
石川智子

6月に召された専任宣教師 第144期生15人



後列左から1—9, 前列左から10—15

(名前)	(出身地)	(伝道地)
1. 渡辺理恵	大阪北S/花屋敷W	札幌伝道部
2. 市森以久	福岡S/福岡W	東京北伝道部
3. 長島直子	三重D/松阪B	福岡伝道部
4. 山野真理	北陸D/小松B	札幌伝道部
5. 吉岡明美	高崎S/熊谷B	岡山伝道部
6. 石川みどり	沖縄那覇S/普天間W	岡山伝道部
7. 大木節子	高崎S/桐生W	岡山伝道部
8. 遠藤千穂	仙台S/泉W	岡山伝道部
9. 佐藤佳子	高崎S/前橋W	札幌伝道部
10. 中村慎之介	札幌西S/苫小牧B	名古屋伝道部
11. 石田正和	東京東S/松戸W	名古屋伝道部
12. 村上稔	熊本D/熊本北B	仙台伝道部
13. 井手顕仁	東京東S/千葉W	名古屋伝道部
14. 姉川淳夫	名古屋S/名東南W	仙台伝道部
15. 鳥海征典	東京東S/千葉W	名古屋伝道部

S: スターキ部, D: 地方部, W: ワード部, B: 支部

役員の内命

1991年5月29日から1991年6月24日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の内命(敬称略)

- 札幌西スターキ部小樽ワード部
新監督: 藤田烈
(前任者: 丸中淳)
- 青森地方部八戸湊支部
新支部長: 一戸克己
(前任者: 下野要助)
- 北陸地方部金沢支部
新支部長: 徳沢清
(前任者: 武田昭一)
- 北陸地方部金沢兼六園支部
新支部長: 松本浩
(前任者: 太田秀典)
- 神戸スターキ部明石ワード部
新監督: 秋葉義夫
(前任者: 加藤新一)

新ユニット

- 松山地方部
地方部長: 杉本昭文
- 高松地方部
地方部長: 森村重義
- 北陸地方部野々市支部
支部長: 武田昭一
- 北陸地方部魚津支部
支部長: 黒田勇
(1991年6月2日, 高松スターキ部は松山地方部と高松地方部に分割されました。この変更により, 日本地区のスターキ部数は22, 地方部数は15になりました)

—編集室から—

皆さんの原稿を募集しています

▶ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。改宗談や日々の生活で得た証(仕事にかかわる証など), 本誌を読まれての感想文などをお送りください。

▶これまでローカルページでは証の著者の生年を記載しておりましたが, 今

後は記載しないことになりました。ただし編集作業の参考のため, 投稿の際には従来どおり連絡先(電話番号), 教会での責任(役職名)に併せ, 生年を記入してお送りください。

▶お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また,

掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますのであらかじめご了承ください。

▶あて先: 〒150 東京都渋谷区桜丘町28-8 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室

☎03(5489)9251